

官民ビックデータ活用のEBPMの推進や成果連動型委託（PFS）等の未来型政策による地域デザイン

<前橋市スーパーシティ構想>

2021.1.26 @政策評価に関する統一研修
前橋市 未来の芽創造課 谷内田 修

めぶく  前橋市



MAEBASHI INFOGRAPHICS

シンボル

市章 旧松平藩の馬印(雄馬)をもとにしたデザイン



川 日本最大の産卵産卵を持つ利根川や、まちなかを流れる広瀬川など水利に恵まれた環境



赤城山 広大な視野を持つ赤城山は日本の景色の一部

1月 初市まつり

4大まつり

7月 七夕まつり

8月 花火大会

10月 前橋まつり

市の木

ZELKOVA GINKGO

けやき いちょう

市の花

ROSE AZALEA

ばら つつじ

観光地

前橋市の観光客は県内や全国の平均より長時間で現場に到着

焼きまんじゅう

ふわふわのまんじゅうに甘い濃厚な餡子だれを塗って焼く、前橋市長のソウルフード

前橋の自慢

江戸時代からの歴史を誇る

みなとあそび

Luna Park

昭和29年開園の歴史ある遊園地。10円で乗れる木馬は日本一古く、国の登録有形文化財に指定されている

大鳥梨

前橋の2番 自慢

まぶまぶ、1番じゃなくてもいいじゃない

原の産肉量家数 第2位 (県内順位) #4

安藤源次郎家数 第2位 (県内順位) #4

きょうりの作付面積 第2位 (県内順位) #4

はらの収穫量 第2位 (県内順位) #4

1世帯あたり納豆の支出額 第2位 (県内順位・国順位) #5

1世帯あたり乳酸菌飲料の支出額 第2位 (県内順位・国順位) #5

1世帯あたり生うどん・そばの支出額 第2位 (県内順位・国順位) #5

赤城山は富士山に次いで樹野の長さ 第2位 (と書かれている)

人口 339,269人

男性 165,930人 女性 173,339人

(平成28年1月31日現在)

面積 311.59 km²

(平成28年1月31日現在)

人口密度 1,089 人/km²

世帯数 143,767

(平成28年1月31日現在)

世帯

森林面積 7,426 ha

持ち家比率 66%

前橋市役所の位置 (日本地図)



東経 139°03'48"

北緯 36°23'22"

海拔 108 m

東京からの距離



114.8 km



日照時間 (年間) 東京 1949.3時間

2167.5 時間 #2

最高気温 2001年7月24日 40.0 °C

観測史上1位 (観測史上1位最高気温2011年7月 41.0°C)

【注】#1 平成28年度国勢調査/ #2 国土庁「マイスター」発表/ #3 国土庁「マイスター」発表/ #4 国土庁「マイスター」発表/ #5 国土庁「マイスター」発表

前橋市の紹介

前橋市～水と緑と詩のまち～

群馬県都であり、人口34万人を抱える中核市

近代には全国有数の養蚕基地として名を馳せた「糸のまち」

四季折々の美しい風景を舞台に多くの詩人が活躍した「詩のまち」

国土のほぼ中央に位置し、東西南北の道路網が交わる物流拠点

都心から約100kmの近さと自然災害の少なさから「首都機能バックアップ都市」としての潜在性

日本のほぼ中央
に位置している



前橋市マスコットキャラクター ころせん

ICTしるくプロジェクト推進中!!



高度教育機関が集積する教育環境



全国屈指の施設数を誇る医療環境



教育都市



6つの大学と30超の専修学校



めぶく。プラットフォーム前橋（地域人材の育成定着に向けた産学官連携によるプラットフォーム）

「地域人材の育成・定着」

1

目的

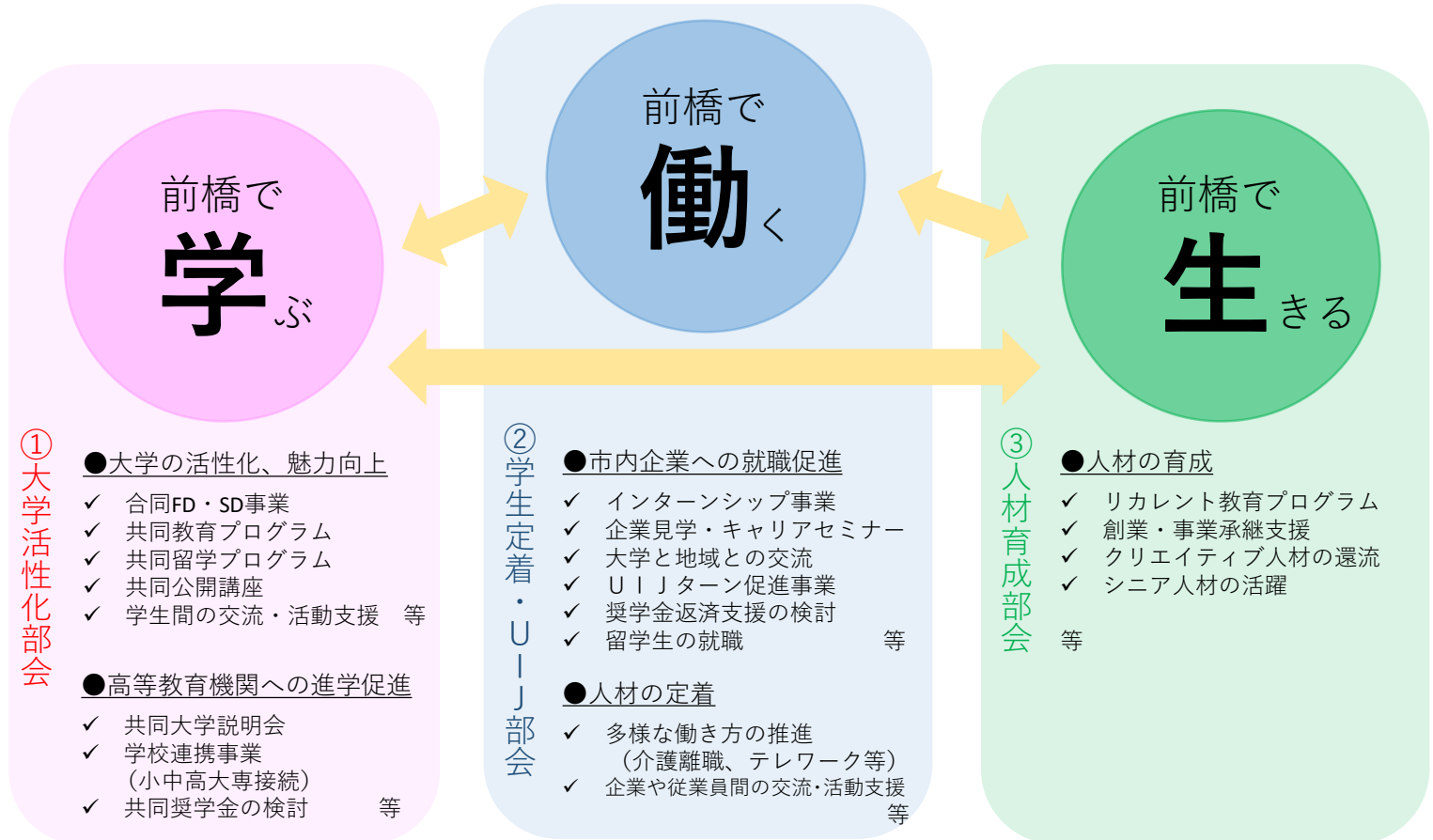
前橋市のビジョン「めぶく。～良いものが育つまち（Where good things grow.）～」には、「前橋の未来に向かって、これまで大切にしていたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への糧として繋いでいくことを、ここに暮らす全ての人で実現する」という想いが込められています。

この街では、ビジョンのもと、学びたい者は大きな繋がりの中で豊かに学び芽吹くことができ、働きたい者は支える仕組みに励まされながら伸びることができ、仕事を承継させたり生涯にわたり活躍したいと願う者は新たな知見を得て実り継ぐことができる。

私たちは、ここ前橋で、個々が自分らしく光輝くために、人材を芽吹かせ、はぐくみ、根付かせていきます。

2

テーマ



3

部会
・
取組

④ 総務部会 ●持続可能なプラットフォーム体制の構築

医療・健康都市



人口10万人あたり医師数 2位 / 48中核市



■人口200人あたりの医師数

$\frac{1}{200}$



先進医療件数

1

群馬大学病院の先進医療件数/
前橋市調べ

■救急事故連絡から医療
機関収容までの所要時間



29.9分

マイナンバーカード1枚でできること “前橋モデル” の将来像

凡例： ■ 既にサービス提供しているもの ■ 実証実験を実施したもの ■ 未着手のもの

母子健康情報から始まるPHR

- 乳幼児健診や予防接種のデータ連携
- 自治体情報配信
- お母さんのお楽しみ機能
- 情報共有機能



公共交通利用支援（マイタク）

- タクシー車内のタブレットにマイナンバーカードをタッチするだけで運賃割適用
- 運行データを分析し交通政策に活用
- 外出の目的である“通院”“買い物”の支援
- AI、自動運転との連携



健康保険証・診察券のワンカード化

- マイナンバーカードで診察受付
- 将来的にはオンラインで保険資格の確認



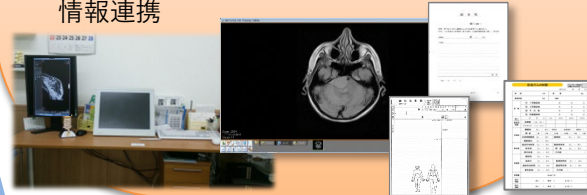
救急時利用

- 本人が意識をなくしてしまっても、救急時に必要な情報を救急隊に提供（既往歴、連絡先、アレルギー等）
- 救急隊は搬送先に情報を事前送付
- 5Gとの連携でさらに高度化



病院・診療所の画像連携

- 患者はマイナンバーカードの本人認証を用い医療機関間で情報共有
- CTやMRI、検査結果などを画像として情報連携



バイタル情報・お薬情報

- 日々のバイタル情報をマイナンバーカードに紐づけて保存、閲覧
- 電子お薬情報もマイナンバーカード連携で情報紐づけ



災害対策

- 避難所にてマイナンバーカードでチェックイン、避難者リストを瞬時に作成
- 避難確認を家族にて共有
- 災害に強い前橋市は5Gを用いさらに避難者受け入れの高度化を



多目的利用・交付支援

- 郵便局でのマイナンバーカードの交付支援
- マイキープラットフォームと連携した前橋ポイントの活用
- マイナポ、マイナポAPIの活用



NTTドコモとの取組み(5G)

- 患者の状態、検査機器の情報を**5G**で**関係者**（救急者、ドクターカー、救急センター）に共有
- **4Gと比較し、5Gの画像は鮮明**で医師から適切な指示が出せ、**患者の治療の高度化、時間短縮に有効**であることを確認

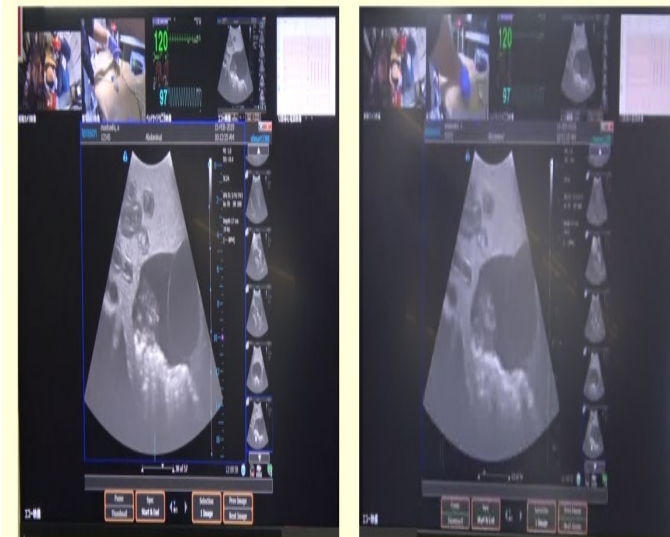


救急車からの患者情報を
パッキングした4K映像を5G伝送し
リアルタイム表示

ドクターカーからの各種医療機器情報を
パッキングした4K映像を5G伝送し
リアルタイム表示



高度救命救急センター医師によるリアルタイム診断・指示模様



5G伝送時

4G品質時

前橋市の取組（民間連携）



めぶく。

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。

風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。

そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、

強く太い幹となる日を夢見ている。

人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。

いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。

ここから、よきものが伸びてゆく。

いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていくだ

ろう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、

未来に希望の森を見るために、

厳しくも優しい風になろう。

慈しみの雨になろう。

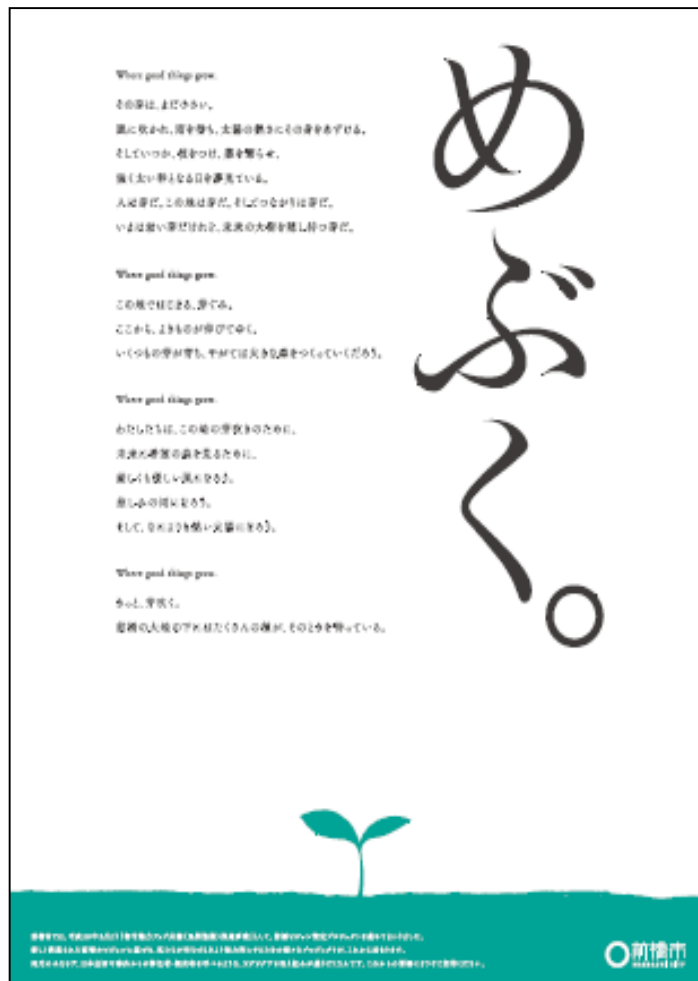
そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。

前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待って

いる。



都市魅力アップ共創(民間協働)推進事業

- 企業等で、前橋市が抱える課題の解決や新たな価値の創造等につながるものを提案し実施（=事業機会の創出）
- 前橋市が費用等を一部負担することも可能

＜前橋ビジョン策定プロジェクト＞

(一財)田中仁財団との共創



＜AI活用による市民アンケートの分析＞

(株)Insight Techとの共創

市民アンケートの解析にAI技術を活用します 

Insight Techとは：「声が届く世の中を創る」ことを目指すベンチャー企業。
AIを用いてテキストデータ+aから「インサイト」を抽出し、民間企業のマーケティング（商品開発・新規事業創出等）や地域の課題解決をサポートしています。

市民アンケート調査
「住みやすさ」への評価・期待

市民の声から「にじみ出る」
地域の課題をAIで特定

Q
前橋市を今以上に住みやすい街にするために、何がどうなったらよいと思いますか。また、その実現に向けてどのような工夫やアクションが有効だと思いますか？



(日本語の文章で回答いただく自由記述形式)

文章解析AI



市民の皆様の「本音」から「客観的」「スピーディ」に課題を導出。
「前橋市の住みやすさ」向上に向けた施策立案に活用。

copyright © Insight Tech, Inc.

民間共創

～行政だけではできなかったことを民間の想いと共に実現する
「都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業」～

サッポロ一番みそラーメン「前橋二番」の製作



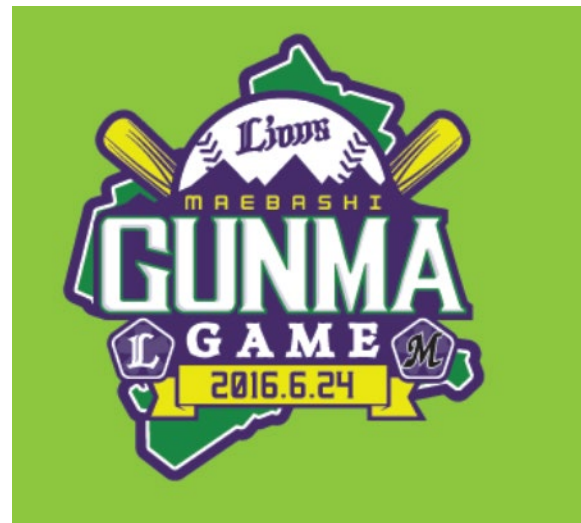
保育所での太陽光発電



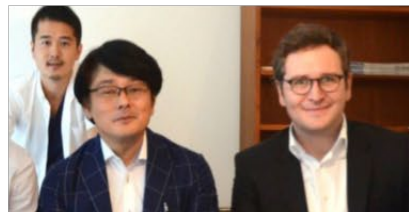
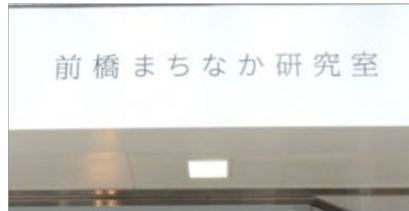
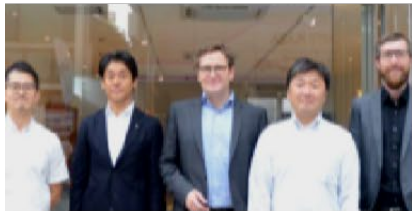
るなばあく施設の塗装（塗り替え）



「みんなの輝く☆を見つけよう！プロジェクト」



前橋のDNA (ステイクホルダーへのインタビュー)



前橋ビジョン発表会 8/3²⁰¹⁶ (水)

参加無料

事前申し込みなし



昇るか、沈むか。



18:00開場

19:00・21:30

ヤマダ
グリーンドーム前橋

前橋市と一般財団法人田中仁財団は、官民で力を合わせて、協力的なまちの形を築くための「前橋ビジョン」策定プロジェクトを進めてまいりました。今年2月に行われた中期発表会を経て、遂にその集大成を市民の皆さまに「前橋ビジョン」としてお披露目できる準備が整いました。当日は、前橋市内でこれからの新たな取り組みに貢献する方々によるプロジェクト発表や豪華ゲストによるトークセッションや記念撮影を予定しております。是非会場まで足を運ばないで、前橋の未来が大きく動き出す歴史の瞬間にお立ち会いください。

【主催】前橋ビジョン実行委員会、前橋市、【協賛】田中仁財団

第一部
19:00～20:25

1. 前橋ビジョンの発表
2. 新しい前橋をつくる事業の発表

第二部
20:40～21:30

トークセッション



山本 龍
【前橋市長】



田中 仁
【前橋市元市長】



永井 直重
【前橋市元市長】

前橋ビジョン発表会 2016.8.3





● 岡本太郎 太陽の鐘 ■ 太陽の会





Green & Relax 構想





“食”の魅力開発



シンボル 太陽の鐘 設置

MAEBASHI TIMES

vol.0
(第0号)



いま、
前橋が
おもしろい。

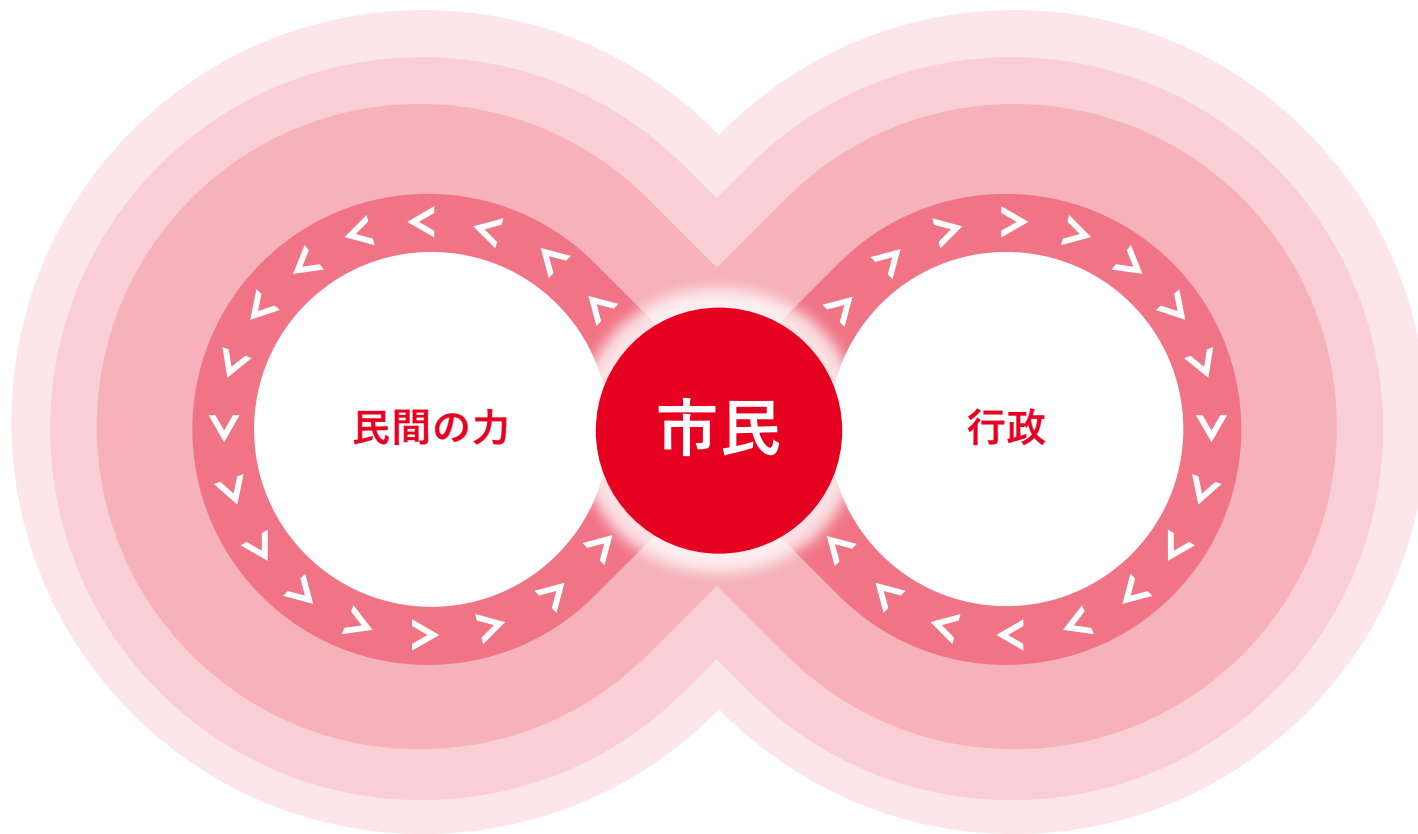
タブロイド紙他、コミュニケーション設計



白井屋ホテル再開発



News Picksトークイベント



行政のみが主導するのではなく、民間の力を大きなエンジンとして
前橋の街のバリューを高めている取組が始まっている



クリエイティブ・クラスの人たちが集い、
新しい価値が生まれる街になる

高齢者も子供も、
圧倒的に便利で快適な生活

住んでいる人／子供の
デザイン・アートに対する感性が育つ

日本のデジタル産業の可能性を
試せて、拡張できる街

Value

デザイン都市

IT (イト) の町 (最新技術の実証実験特
区)

地元の食材と味の可能性が拡張する

デジタルの才能が集い、出会う街

めぶく

Well-being/Well-design

都市で最先端の仕事しながら、
自然を感じられる人間らしい生活

いくつになっても、学びなおし、
起業にチャレンジできる街

ただ街を歩くだけでも心地よさを感じ、
精神的な健康が促進される街

Green & Relax

人が育つ町

最先端のデジタル教育を
子供も女性も高齢者も受けられる

緑、広場が防疫の役割も果たす
Well-beingな街

「本当にいいもの」「一流の人」
に触れて感性が育つ街





“100年時代、人の可能性がめぶき、拓きつづける街”



未来の芽創造課のミッション

都市の暮らしやすさ、多様性、寛容性をベースに、
街や人が幸せになる新たな価値の創造（めぶく）に挑戦する人やコトを支える



①

未来型政策

②

シティ°ロケーション

③

民間共創

④

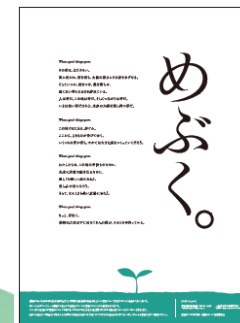
ふるさと納税

⑤

移住・定住

促し、つなげ、支える

【地域で共有していく方向性（第七次前橋市総合計画）】
ビジョン「めぶく。～良いものが育つまち～」
将来都市像「新しい価値の創造都市」



前橋市（地域）の課題

- A 地盤沈下（産業・人口）
- B 事業承継
- C シビックプライド欠如
- D 人口減少
- E AI・デジタル社会対応



課題A 地盤沈下～厳しい現状～

量・質ともに縮小傾向が続く産業面

	1995年	2018年	減少幅
製造品出荷額計	6,973億円	5,569億円	△ 20%
従業員数	27,157人	19,480人	△ 28%

若者の転出に歯止めがかからない

(H24-26の3か年平均)

	転出	転入	差引
15-19歳	461人	404人	△ 57人
20-24歳	1,735人	1,511人	△ 224人



**駐車場（黒枠部分）だらけ
の中心市街地**（山本市長作成）



市役所

中央前橋駅

前橋駅

課題B 事業承継の必要性

- * 経営者の平均：66歳
- * 引退年齢の平均：70歳
- * 中小企業の後継者71%が未定（50%が廃業予定）
- * H28群馬県94（前橋市28）の倒産でも原因推定される

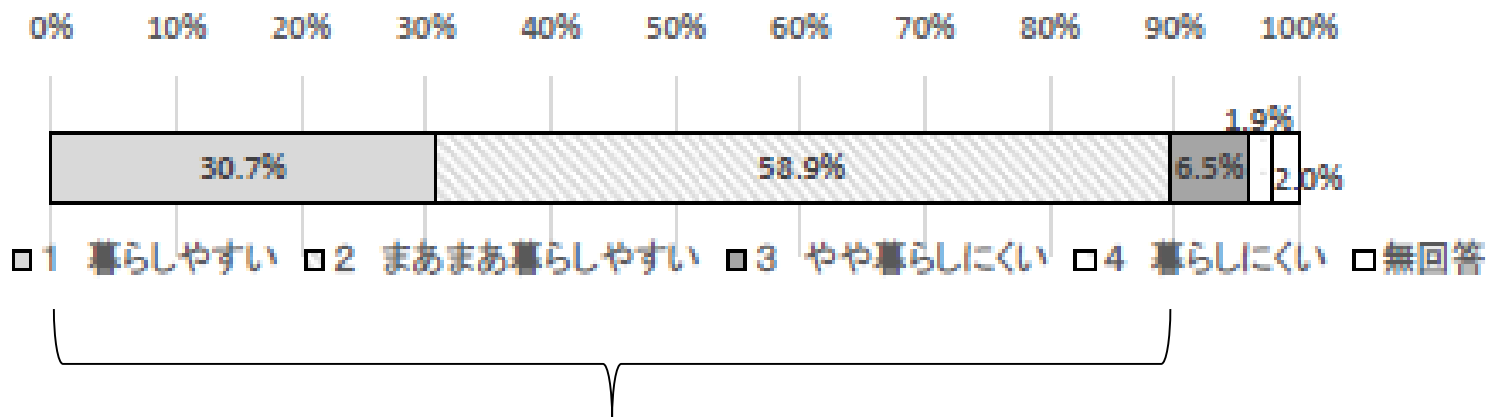
課題C シ“ックプライト”（誇りや愛着）の欠如

◎ 前橋の暮らしやすさ

（市民アンケート：n=2,905）

■暮らしやすさについて

【問19】前橋市は、暮らしやすいところだと思いますか。



約9割（89.6%）が
暮らしやすい、まあまあ暮らしやすいと回答



▲ シブックプライド（誇りや愛着）の欠如

あまり感じない、感じないと答えた割合

■感じる ■やや感じる ■あまり感じない ■感じない ■無回答

(19) 中心市街地に活気があり、にぎわっている。



**約 9 割
(91.4%)**

(24) 前橋のことが県外の人に広く知られ、良いイメージである。



**約 8 割強
(84.3%)**

(30) 市民が前橋の自然・歴史文化・食・風土などに誇りを持っている。



約 6 割 (59.2%)



課題D 人口減少（地方創生）

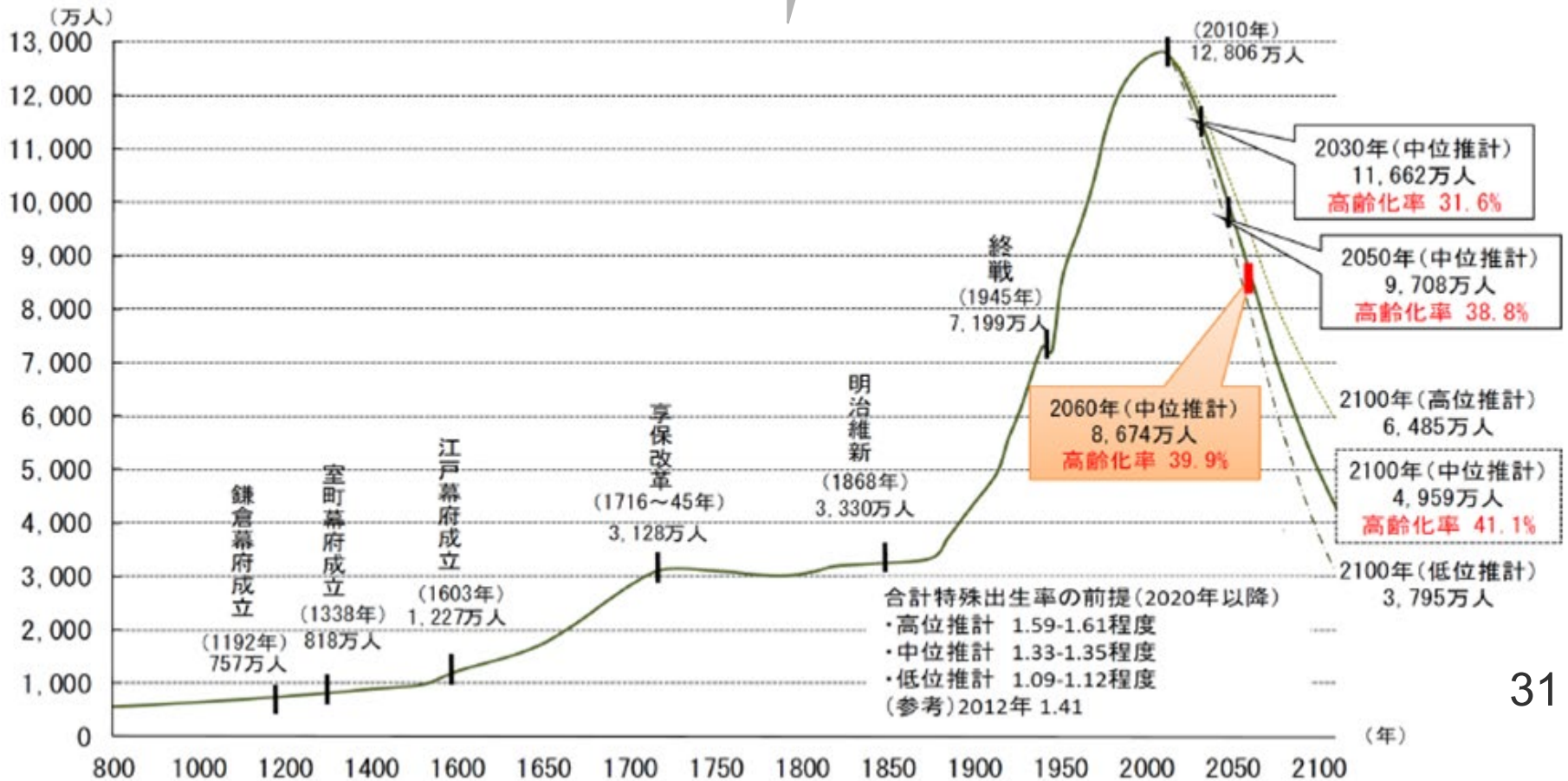
（人口減の現実に直面した危機感のある初めての本格的な地域活性化）

- 平成26年5月増田レポート：896自治体消滅
「2040年には全国1800の半分が消滅可能性」
- 平成26年12月「まちひとしごと創生法」
- 石破大臣「地方創生のための時間が残っていないという危機感と今回の地方創生が失敗すれば国が潰れるという切迫感がある」
- 日本の総人口は2100年に5千万人弱

日本の将来推計人口

2010年
1億2,800万人

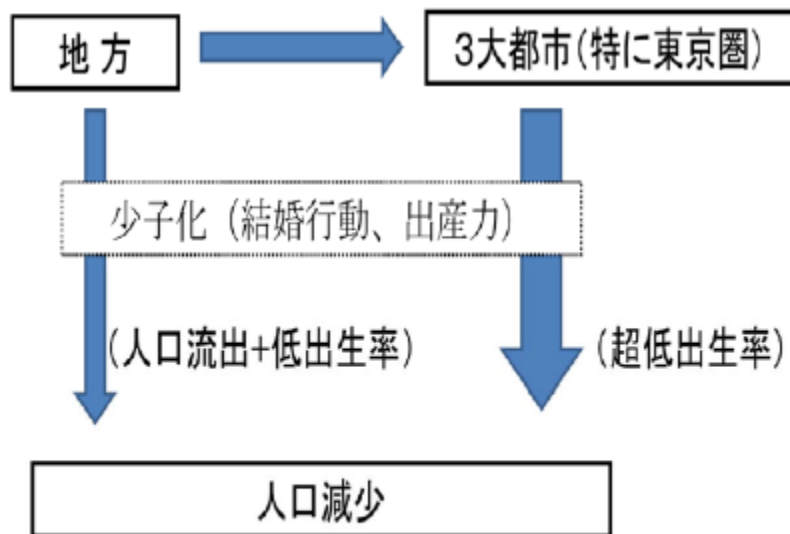
2100年
5,000万人



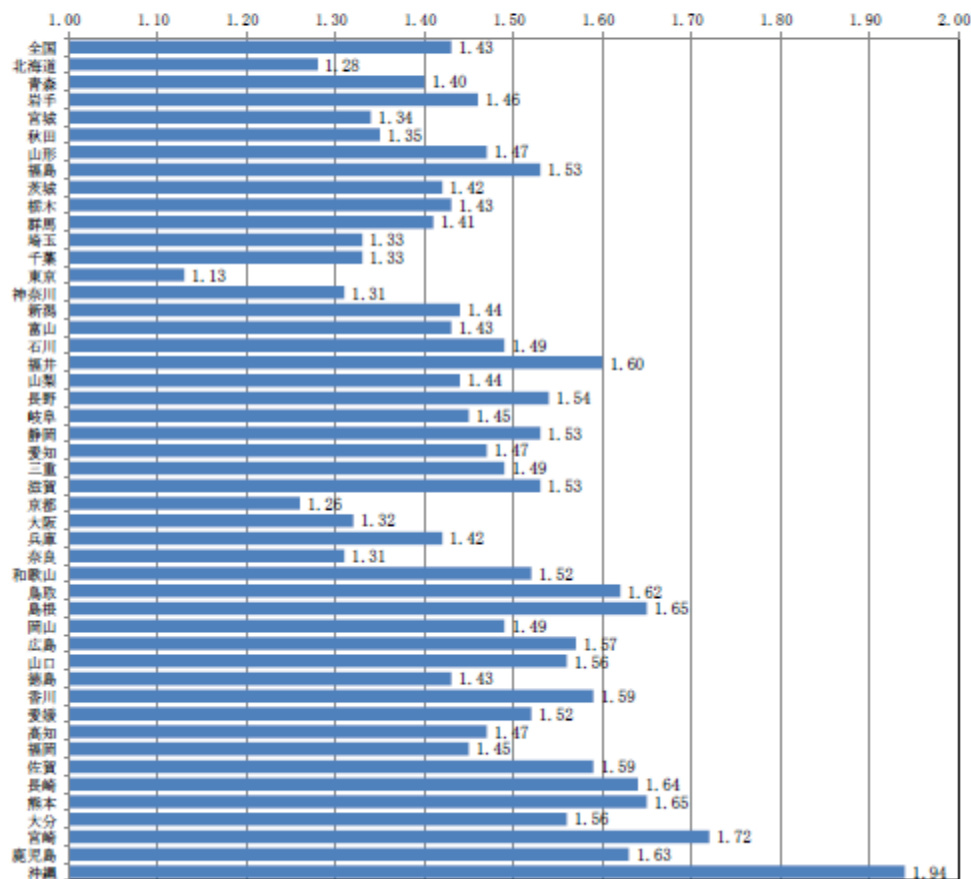
人口減少の要因（地方と3大都市）

- 三大都市圏、特に東京の出生率は極めて低い。
- 地方から三大都市圏への若者の流出・流入と低出生率が人口減少に拍車。

人口移動（若年層中心、これまで3期）

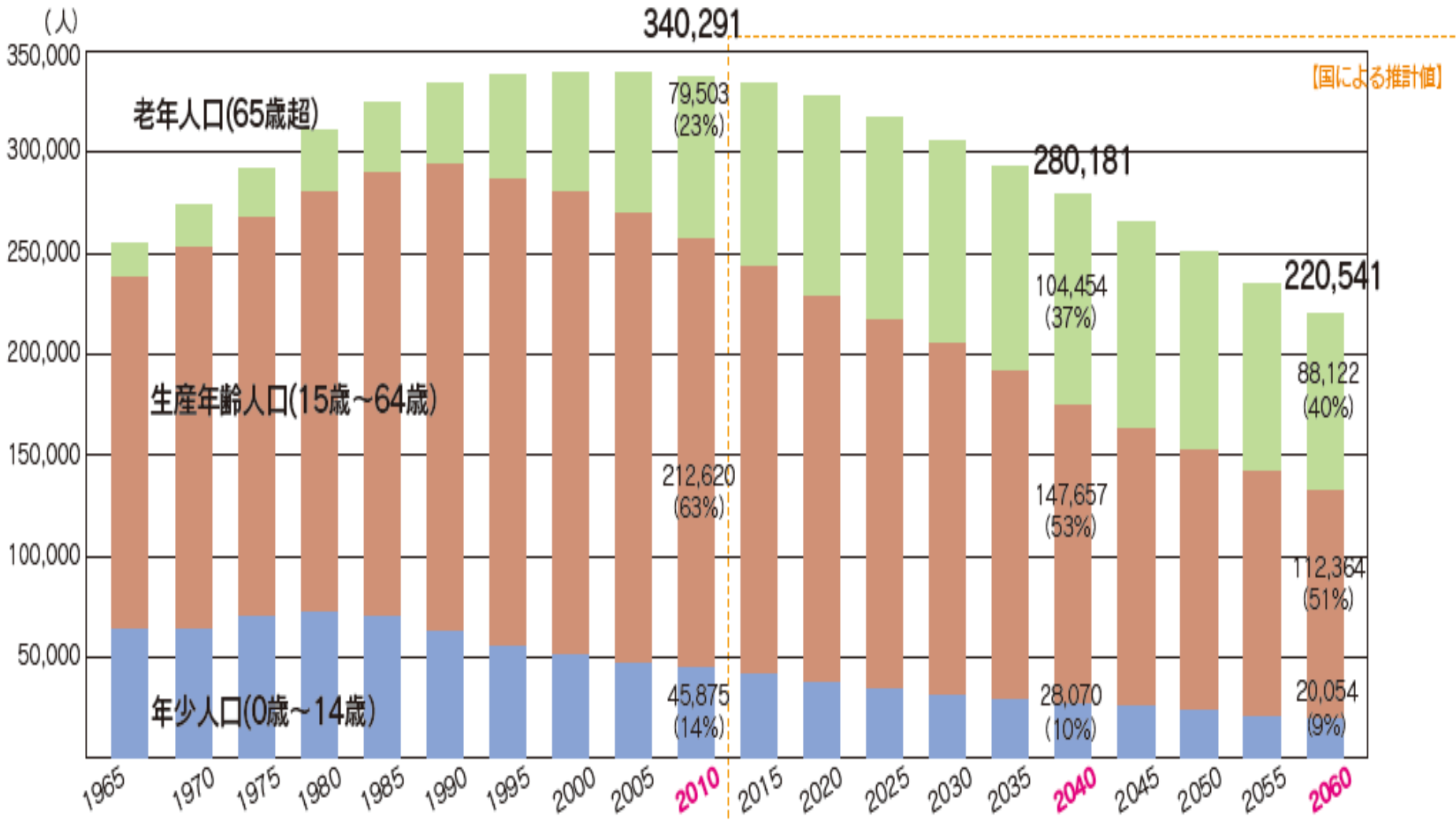


(出所) 日本創成会議・人口減少問題検討分科会
「ストップ少子化・地方元気戦略」より。



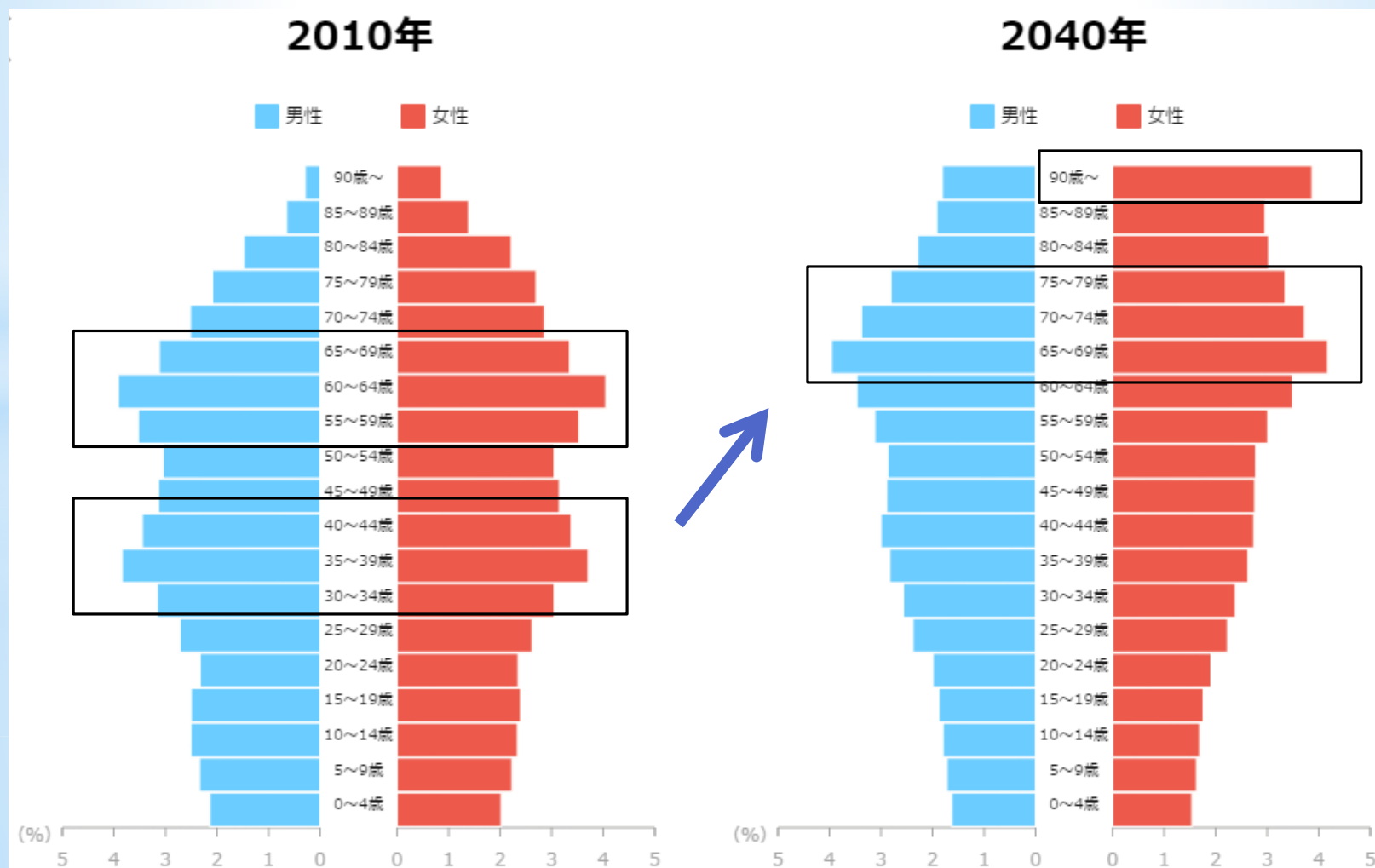
(出典) 厚生労働省「平成25年人口動態統計月報年計」

前橋市の将来人口推計（国推計）



人口ピラミッド（2010年と2040年の比較）

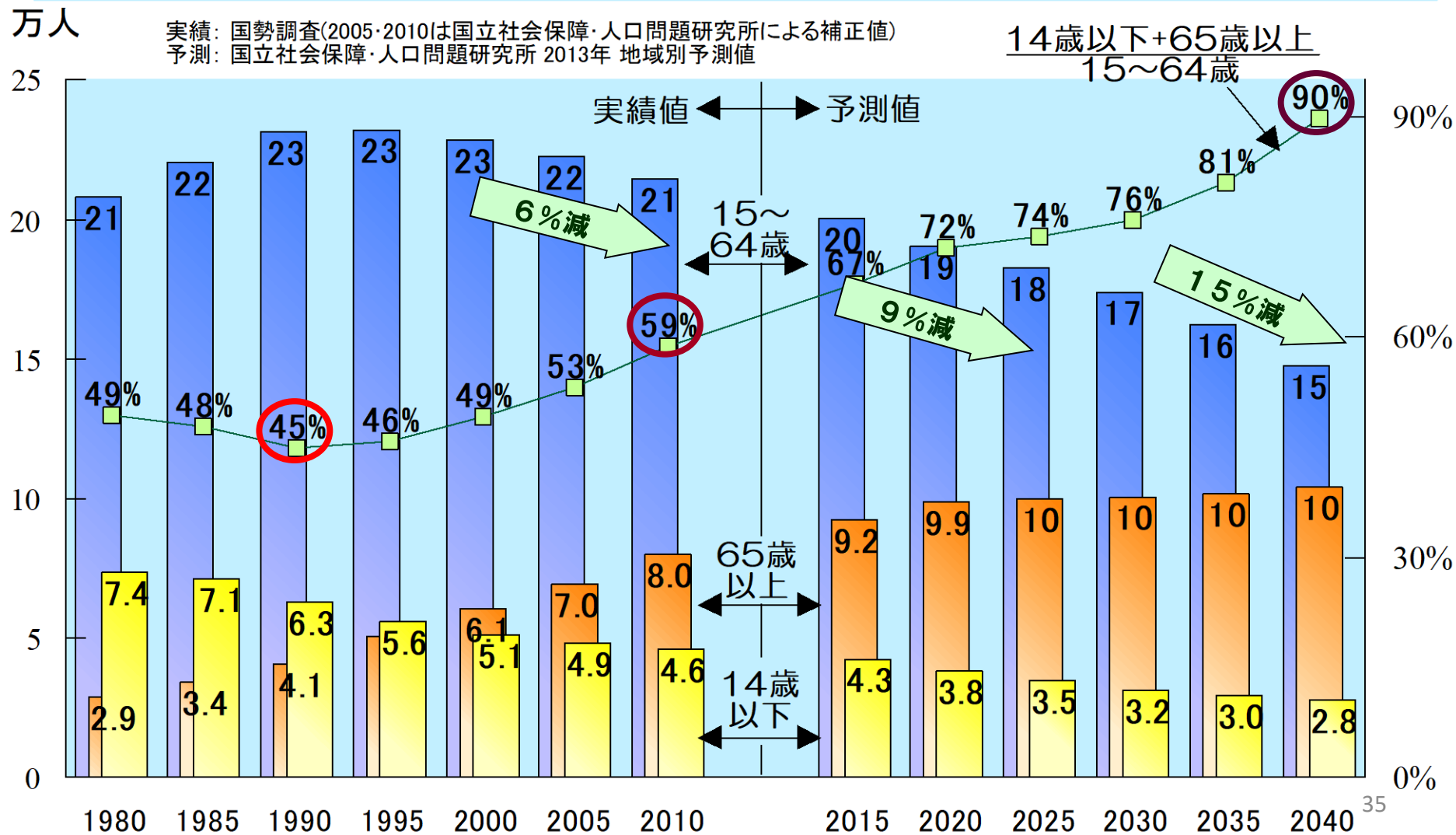
- 2010年は55歳～69歳の層の割合が最も多いが、次いで、地域活動・企業活動において中心となる30～44歳の層が厚い。しかし、2040年には、これらの世代が高齢化し、60～74歳の割合が最も多くなる。
- また、2040年には、年齢別構成で90歳以上が65～69歳に次いで多くなる。



現状分析【人口編】

～現役世代が減り続ける前橋市～

年齢階層別にみた前橋市(現市域)の在住者数(1980-2040)



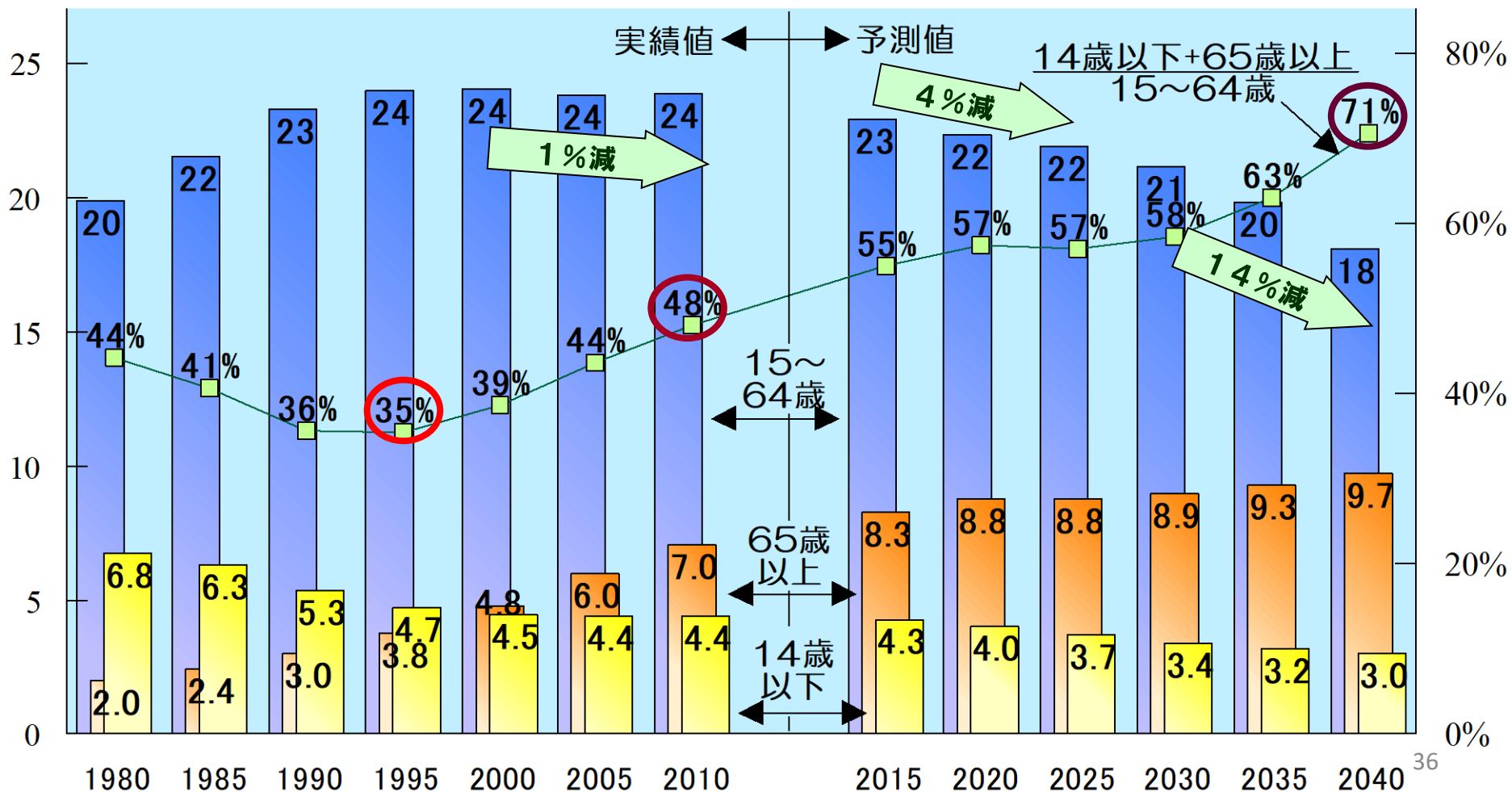
～高齢者が増え現役は減る首都圏～

年齢階層別に見た首都圏一都三県の在住者数（1980-2040）

百万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



現状から見える課題（藻谷レポート）

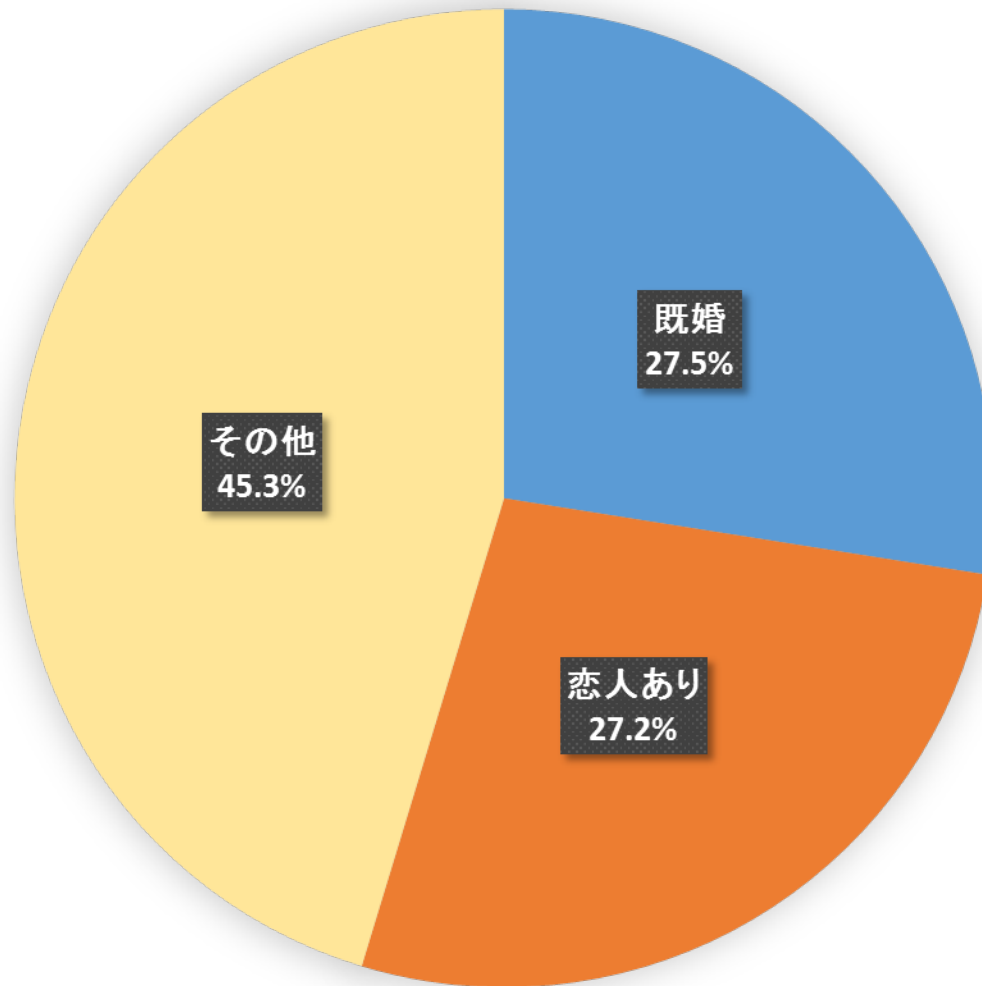
1. 高齢者増が突きつける課題

- 首都圏でこそ今後高齢者が激増
→地方に回す財源が枯渇(34/62)
- 年金財源不足の中での、高齢者の生活資金の確保
- 高齢者の未病促進→医療費抑制
- 終の棲家と死に場所の確保
- 医療福祉の財源と人手の確保
- 「自家用車依存地域」の活力喪失

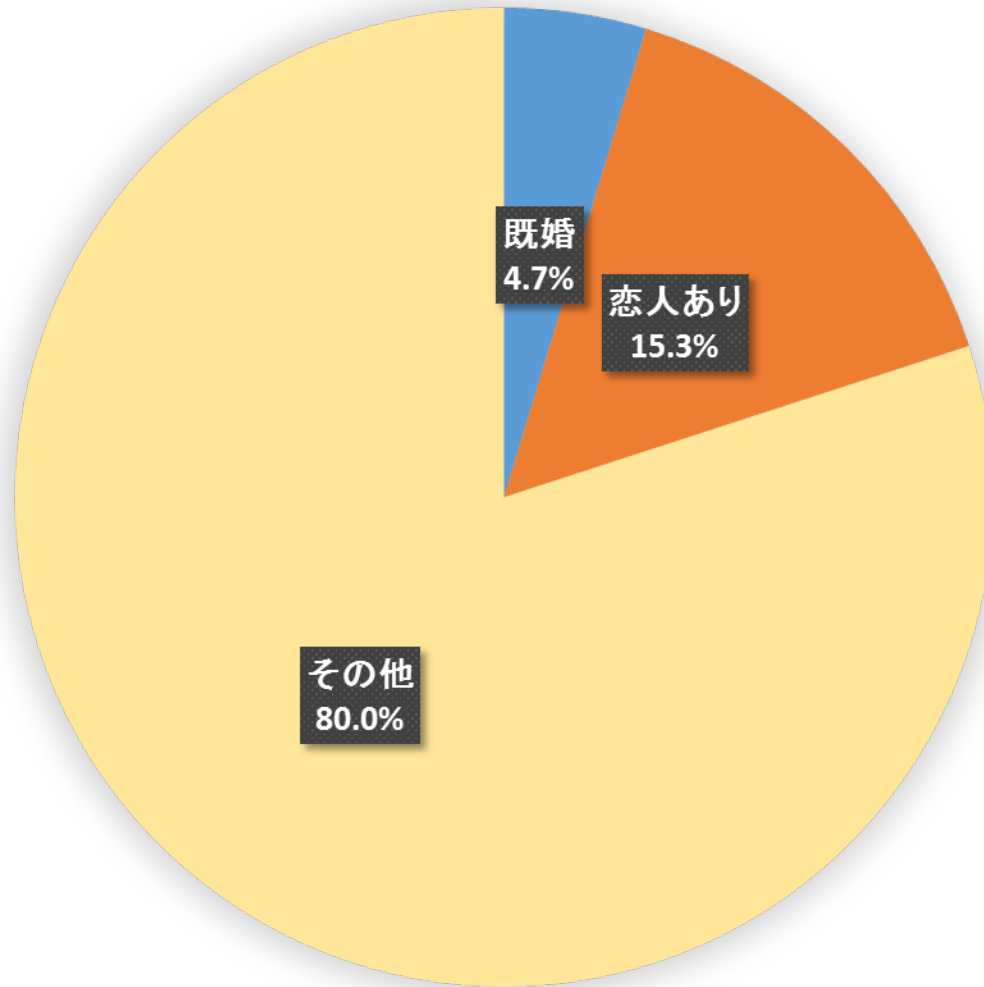
2. 現役世代減少が突きつける課題

- 首都圏でも中韓台でも現役世代が減少
→ 「地域間格差」ではなく日本全体そしてアジアの地盤沈下
- 就業者総数の減少→所得総額の減少
→消費総額の減少の連鎖
- 税収減少→国の借金どう返す？
- 医療福祉介護の担い手の不足
- 空地・空店舗が郊外でも急増へ

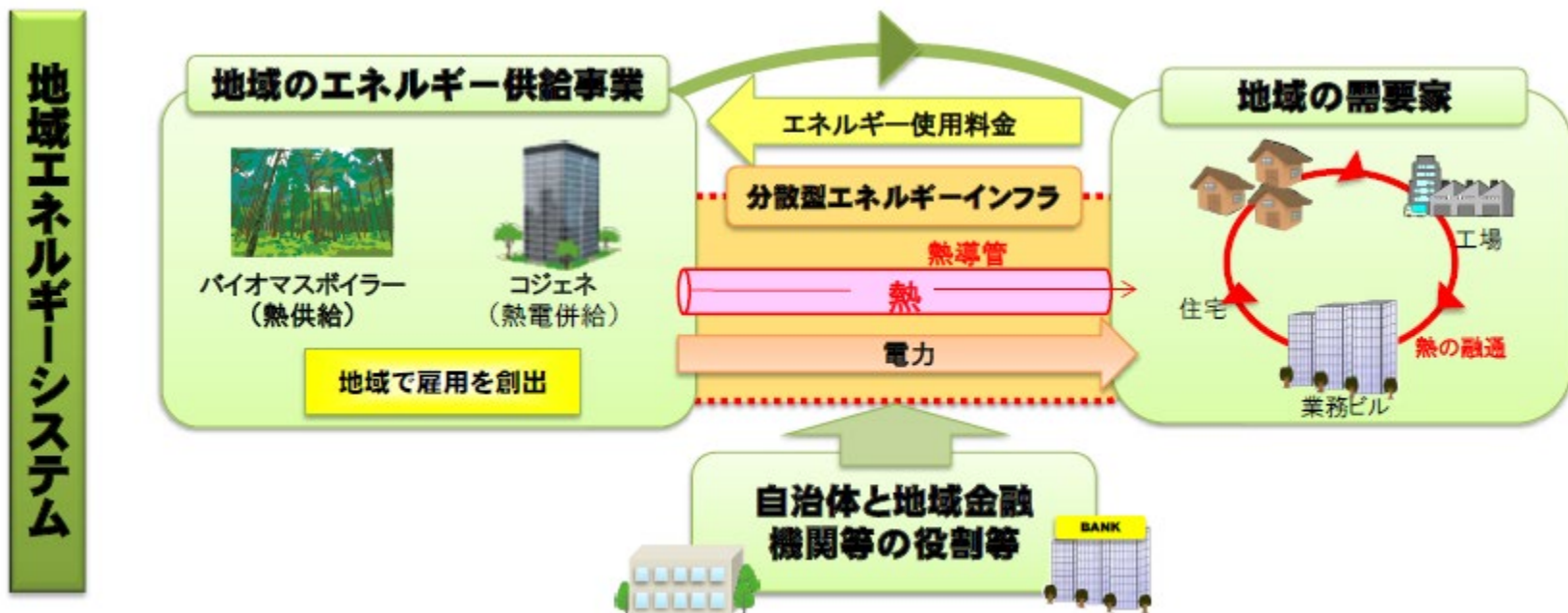
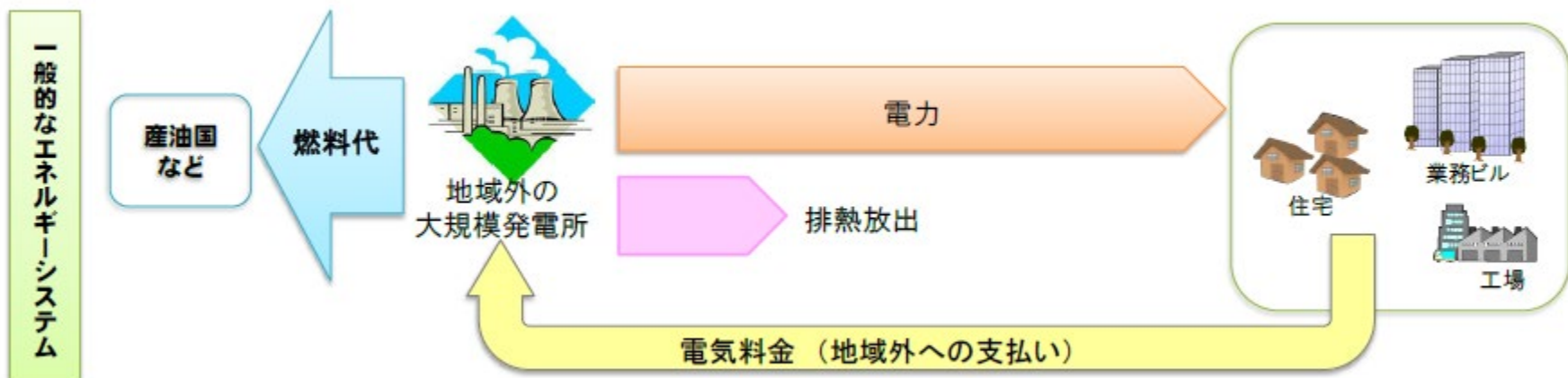
39歳以下の男性(正社員)



39歳以下男性の男性(非正規雇用)



2-2 地域エネルギーシステムと地域内での資金循環



A I ・ デジタル社会

- 最新のデジタル技術がビジネス、社会、地域の中核に取り込まれ、社会変革、地域変革が起きている
- 量子コンピュータ（スパコンの1万年かかる計算を3分で）等の誰も想像できない未来
- 子どもの65%が今はない仕事に。今の職業の50%が20年後に雇用無し。
- 若い企業が雇用の38%
- なのに国の予算は1000対5
- スタートアップは正しき道
- 新しい価値に対する多様性・寛容

【今まで】

工業社会（坂の上の雲）

「経済的な豊かさ、高度成長」



【これから 新しい時代】

ポスト工業社会（坂をゆっくり下る）

「（精神的な）豊かさ」



新しい時代、地域の将来に必要なものは

- 「地域経営」をキーワードとしたまちづくり

- 地域が共有する価値観・ビジョン

- 新しい価値に対する多様性・寛容性



新しい時代、地域の将来に必要なものは

「地域（行政）」×「デザイン」

（de:崩して、Sign:構築）

＜街を、人を、幸せにする

新しい価値の創造＞



新しい時代、地域の将来に必要なものは

「challenge」

「アジヤイル」

＜街を、人を、幸せにする
新しい価値の創造＞

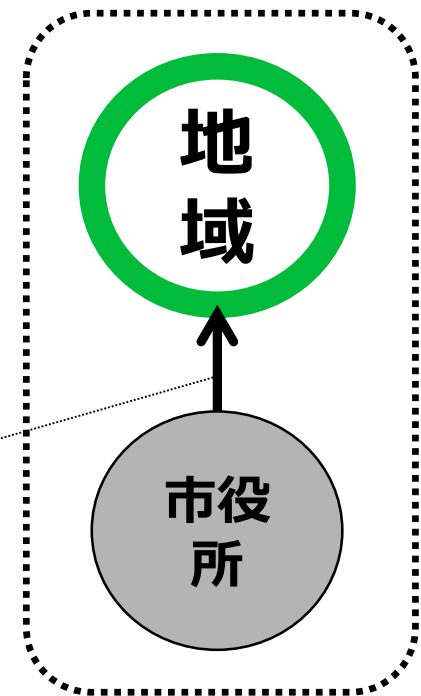


これからのまちづくりは「地域経営」

○地域経営とは、これまでのように行政を頂点として地域課題の解決を目指すのではなく、市民、企業・団体、行政それぞれが「自分ごと」として地域の課題を捉え、自主的・自律的に、また連携して課題解決に取り組む体制。

○行政（市役所）は、地域経営の実現に向けて、地域が目指すべき方向性を示すとともに、それぞれの主体的な行動を促し、つなげ、支援する。

地域（企業、市民）の活動を
応援する、活動を促す



「地域経営（行政×デザイン） の目指すべきモノ」

- 街の個性、暮らしやすさに磨きをかけてPRする
- 街の魅力を鍵に人材を引きとめ、引きつける
- 過度にお金や物に依存する従来の価値観“東京”とは異なる新しい価値観・人・コトを支援する
- 新しいビジネスを生むイノベーションの創出、ローカルハブに必要なクリエイティブ人材の誘致
- 人に選ばれる街が企業もひきつける
- 寛容度の高い街“若者・よそ者を排除せず多様な文化や価値観を受け入れる寛容性に富んだ街。

誰もが認める「善い地域」。QOLからQOC。



「新しい時代・地域」のために

- 「地域経営」をキーワードに
- 街の方向性 「価値観・ビジョン」を共有
- 市民、企業、団体、行政それぞれが「他人ごと」でなく 「自分ごと」として、自分の、そして地域の未来を考え、
- 自主的自律的に、連携 (「民間連携」)
- 善き街を一緒につくる



■すべて（地域の将来）のベースとなるもの

●エビデンス（根拠となるデータ）が不可欠

●EBPM

（エビデンス ベース ポリシー
メイキング）

「官民ビッグデータの活用による
EBPMの推進」

●未来志向で部門の最適化から
全体最適化

前橋市の取組 (EBPM)



これからのまちづくりのキーワード

地域経営

地域経営とは、これまでのように行政を頂点として地域課題の解決を目指すのではなく、市民、企業・団体、行政それぞれが自分ごととして地域の課題を捉え、自主的・自律的に、また連携して課題解決に取り組むこと

市役所の役割は、それぞれの主体的な活動を
「促し、つなげ、支援する」こと

【地域で共有していく方向性（第七次前橋市総合計画）】
ビジョン「めぶく。～良いものが育つまち～」



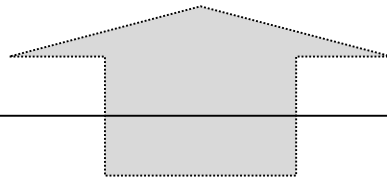
それぞれの主体的な活動を
「**促し、つなげ、支援する**」ためには、



様々なステークホルダーとの

- ① 目線合わせ（議論の前提となる現状の共有）と
- ② 納得感醸成（事業の効果とマイナス面の具体的な認識）

が重要



エビデンス（根拠となるデータ）が不可欠



ポイント

1 何を考えているか？

(部門の最適化から全体最適化へ)

2 何をしているか？

(ビッグデータを活用した
新たな空き家実態調査モデル)

3 何を目指しているか？

(ライバルはトロント・杭州、そしてトヨタ)



1 何を考えているか？

(部門の最適化から全体最適化へ)



市のミッションと主な取り組み

① ミッション

都市の暮らしやすさ、多様性、寛容性をベースに
街や人が幸せになる新たな価値の創造（めぶく）に
挑戦する人やコトを支える

② 主な取り組み

民間共創

- 都市魅力アップ
- 前橋ビジョン
- 太陽の会
- 太陽の鐘



市民・大学との連携

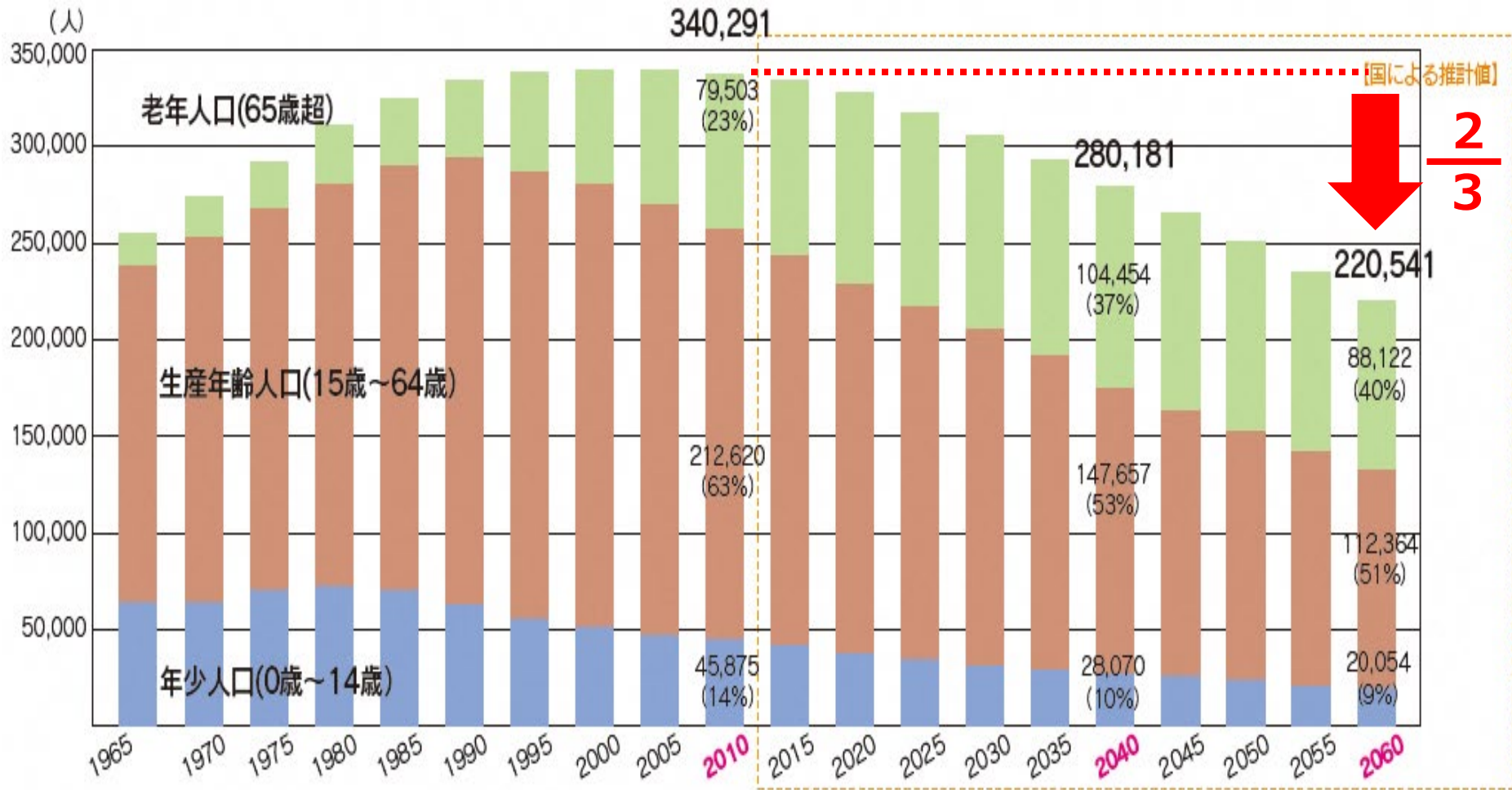
- めぶくプラットフォーム
- 大学連携
- 前橋〇〇特区

未来型政策

- **EBPM**
- MaaS、自動運転
- ICTまちづくり
- 成果連動



取組の背景



多くの自治体では人口減少の問題が顕在化



取組の背景

人口減少、空き家対策等の
複雑な課題（≠複合的な課題）を解決するためには

部門の最適化から全体最適化へ

様々なステークホルダーとの

- ① 目線合わせ（議論の前提となる現状の共有）と
- ② 納得感醸成（事業の効果とマイナス面の具体的な認識）

エビデンス（根拠となるデータ）が不可欠

取組の背景

システム思考（コレクティブインパクト）

群盲象をなでる（評す）

- それぞれの当事者は象の異なる部分を触る（部門の最適化・傷口に絆創膏）
- 個々に焦点を当てること(部門の最適化)からそれらの出来事を起こすシステム構造を理解し、再設計する



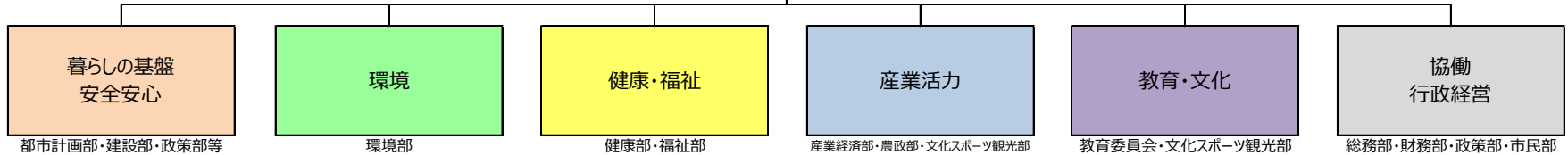
参考：デビッド・ピーター・スロー「社会変革のためのシステム思考実践ガイド」

取組の背景

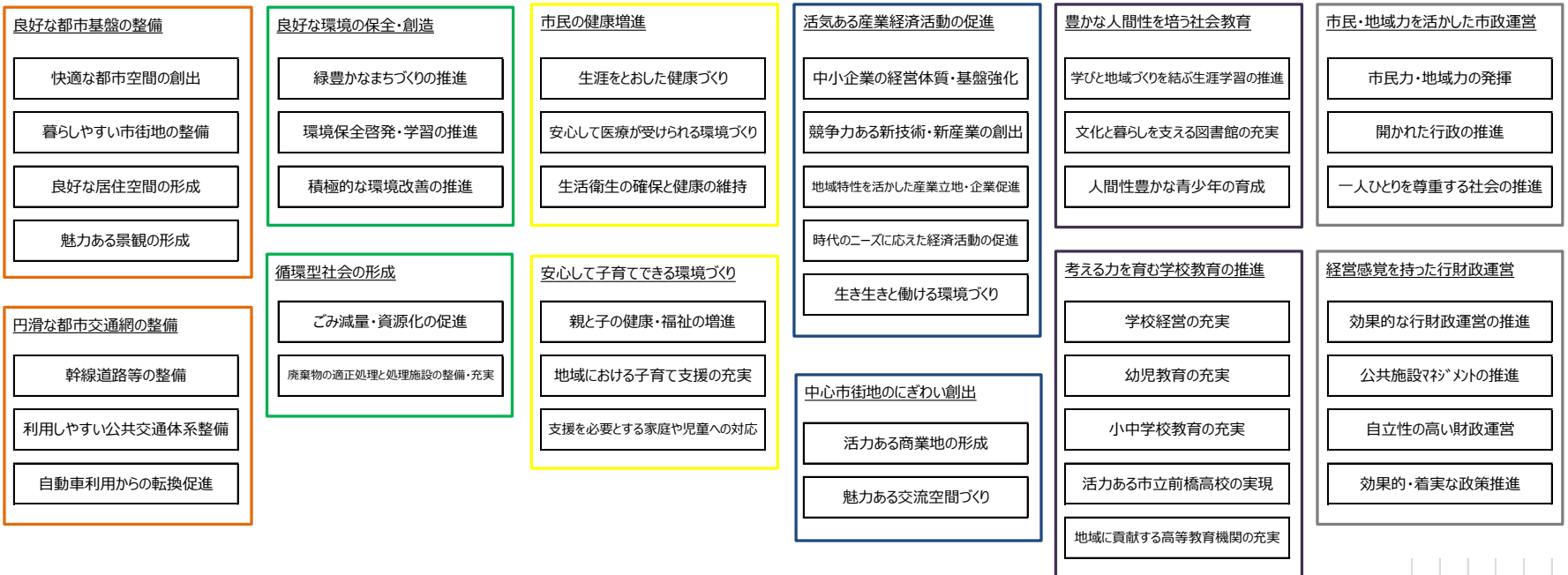
(今まで) 目的と手段の関係で体系化されている

総合計画

【分野】



【政策群】



取組の背景

(これから) 新政策思考

政策を取り巻く現状

＜前提： 政策 = 理想と現実をつなぐ手段＞

- ☆ 課題・問題が複雑化している
- ☆ 官民ビックデータ、UDXを活用

新しい特徴

- ① ビジョン（新しい価値の創造）
 - ② E B P M + ファクトフルネス
 - ③ 従来 of 課題最適化と全体最適化のバランス
 - ④ チャレンジ・アジャイル
- 新プロセス(高速に廻す新しいP D C A)等の手法

2 何をしているか？

(ビッグデータを活用した
新たな空き家実態調査モデル構築)



日本全国の空き家率

13.6%

(過去最高)

各自治体には、適切な管理及び利用促進が
求められている・・・しかし



取組の背景

実態調査の3つの課題

①

予算

外部委託に
かかる経費
(市全域)

1,310万円

②

時間

年度初発注
↓
年度末納品

対策は翌年度

③

判断

外観のみで判
断できない、調
査員による偏り

判断ばらつき



取組の背景

だからといって諦めない



産学官連携とICT技術で解決



CSIS
東京大学 空間情報科学研究センター
Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo

MRI
株式会社三菱総合研究所

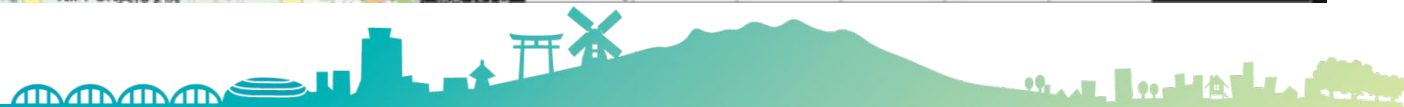
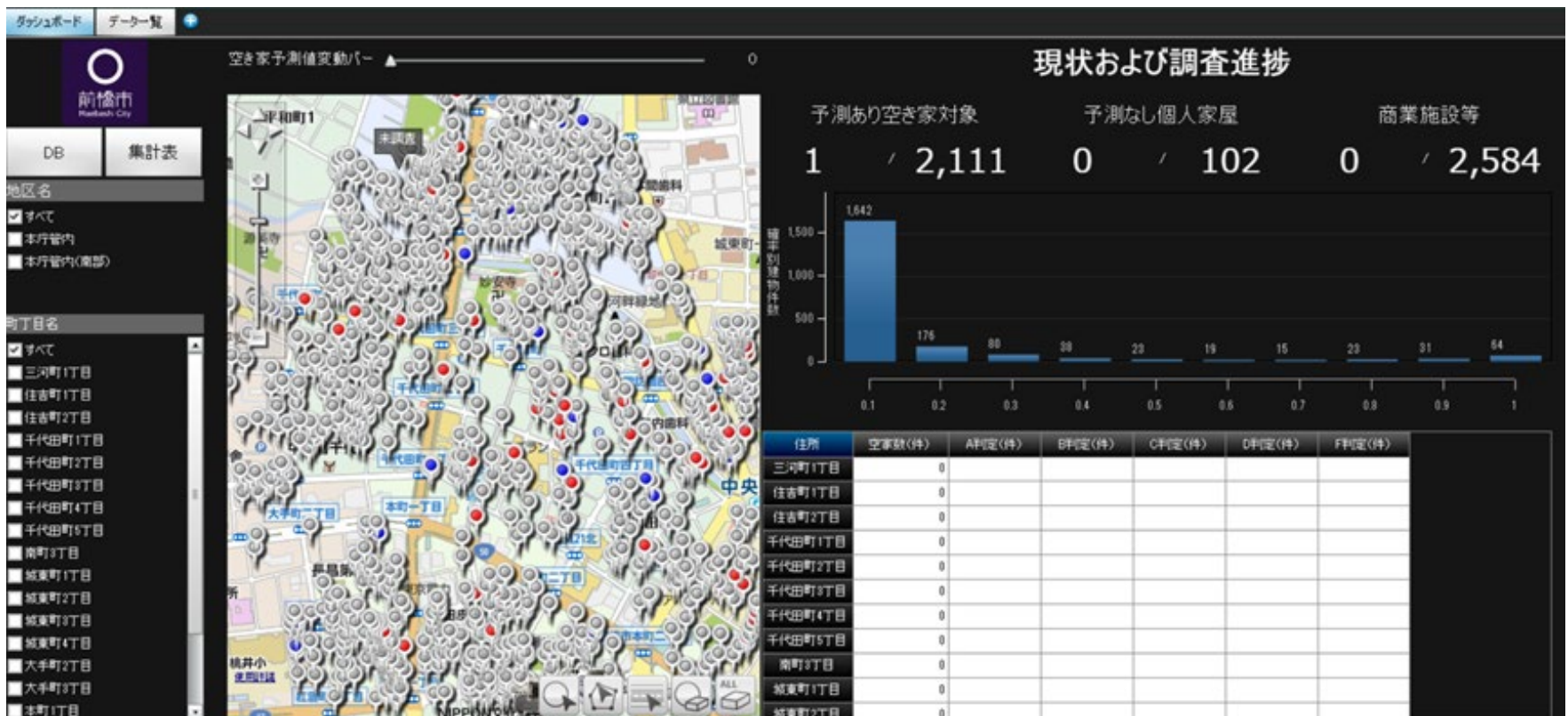
 帝国データバンク

めぶく  前橋市



取組の背景

市が保有するクローズドなビッグデータを活用し、
空き家の状況を推定・可視化



取組の背景

①

クローズド
データの
活用手続
き



②

空き家率
の推定



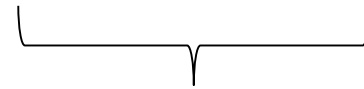
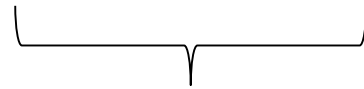
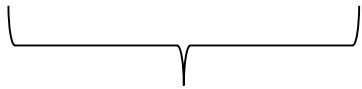
③

ダッシュ
ボード構
築



④

データを
活用した
空き家実
態調査



官
(自治体)

学
(大学)

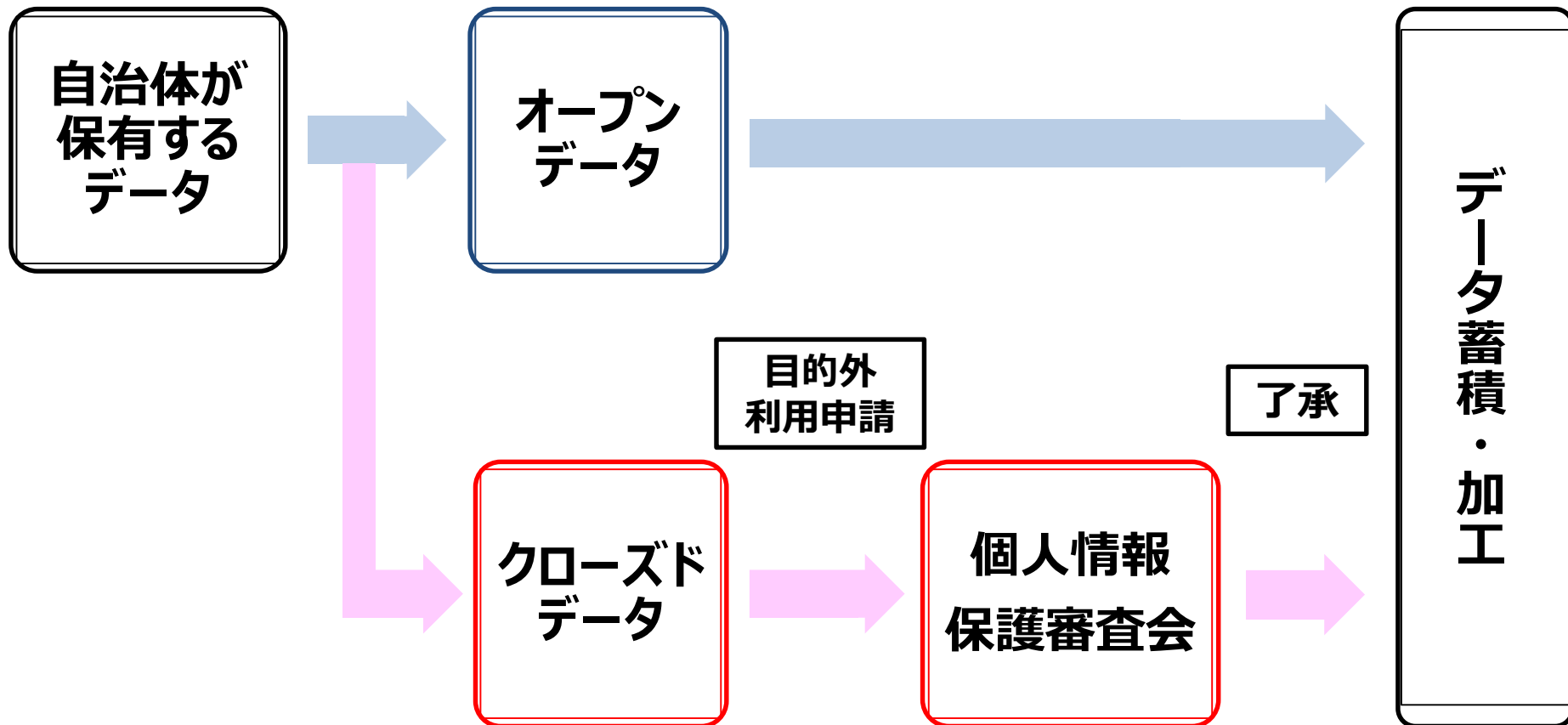
産
(企業)



取組の概要

① クローズドデータの活用手続き

(官：前橋市、産：三菱総合研究所)



取組の概要

② 空き家の推計（学：東京大学）

※赤字：空き家推定に利用



住民基本台帳

所在地、
転出先住所、
性別、年齢、続柄



固定資産税台帳

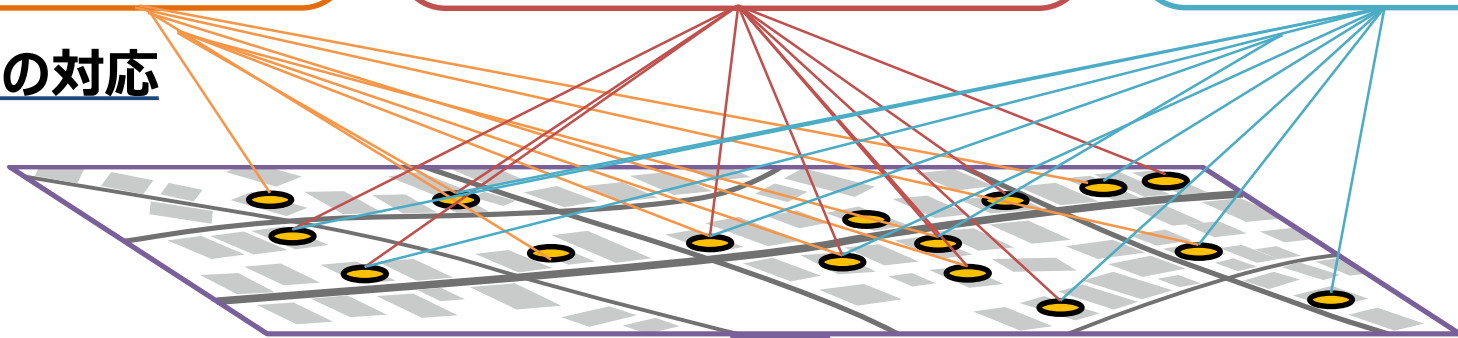
所在地、所有者住所
建築年、建物用途、構造、
地積、地目、土地形状



水道使用量

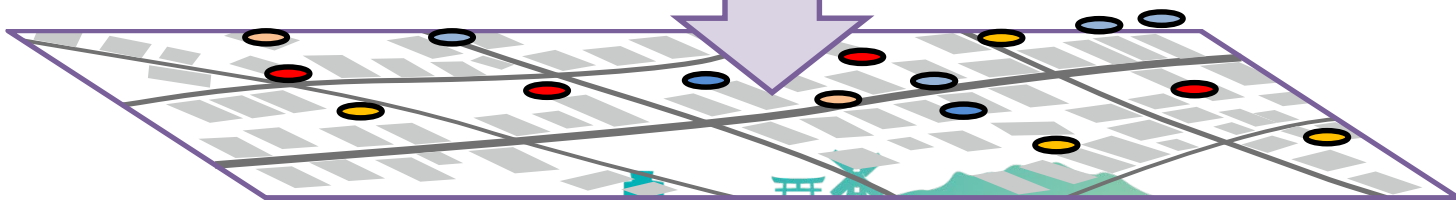
所在地、
月別使用量

地図上での対応



推定値の算出

建物ごとの空き家確率推定モデルの構築



取組の概要

建物ごとの空き家率の推定結果



取組の概要

③ダッシュボード構築（産：帝国データバンク）

- 空き家推定結果を踏まえながら、実態調査を実施する
- 結果をリアルタイムに反映し、スピーディな状況把握・施策検討に繋げる

フィールドワーク用アプリ



本部担当者が見るダッシュボード



※フィールドワーク用アプリに入力された情報をリアルタイムで把握可能

取組の成果

定量的な効果

【現地調査結果】

【空き家推計値】

	空き家であった	居住者がいる	合計
高い (=0.5以上)	約8割 (76.9%)	約2割 (23.1%)	100%
低い (=0.5未満)	約3割 (31.0%)	約7割 (69.0%)	100%



- 空き家推定値と現地調査結果は、比較的高い割合で合致していることが確認できた
- 今後、空き家推定の確度を上げ、実用化や他自治体への横展開に向けて取り組んでいく



取組の成果

取組にあたって要した経費

0 円

- ・本取組により得られた知見やノウハウを標準化すれば、低コストで、他自治体への横展開が可能



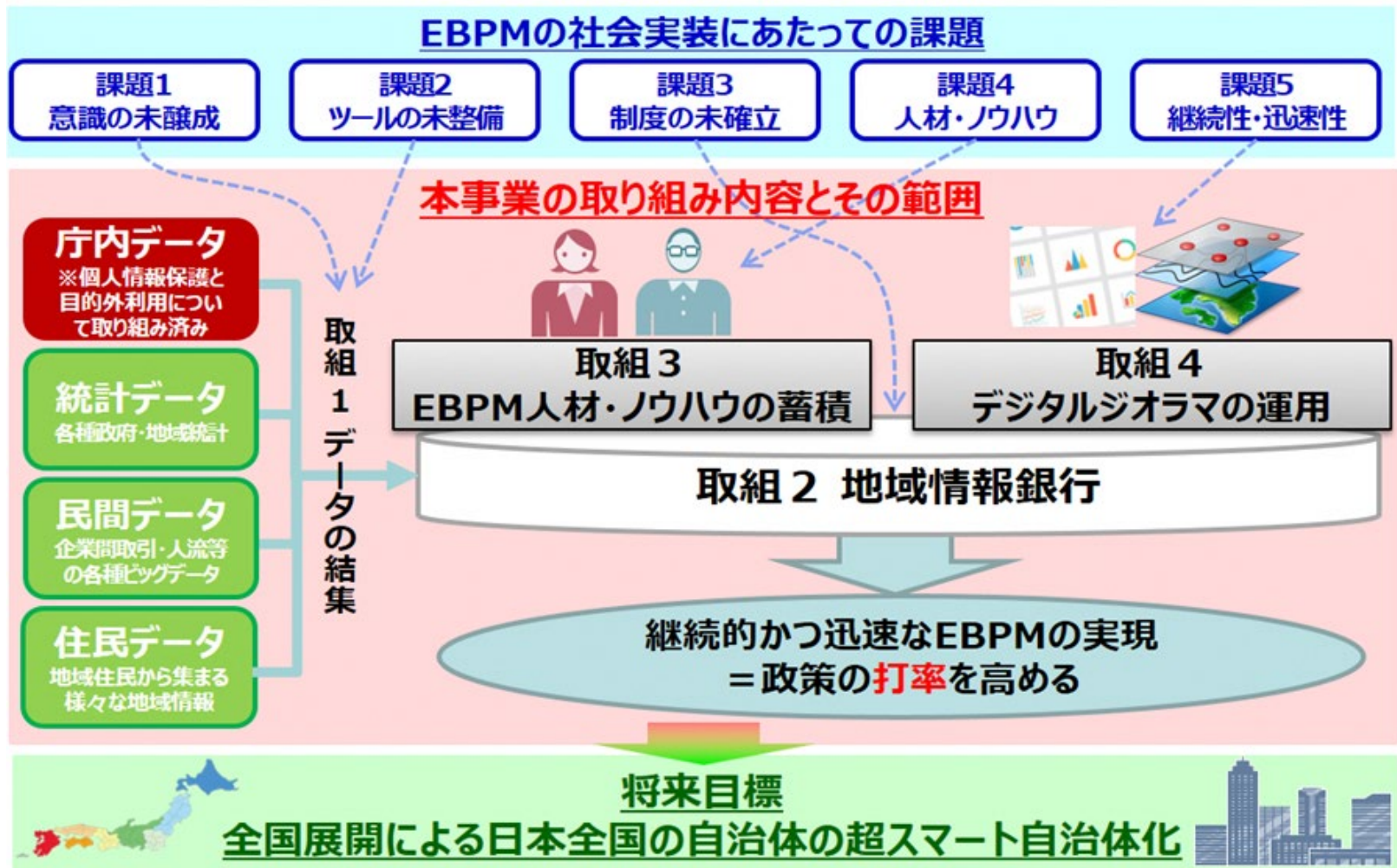
3 何を目指しているか？

(ライバルはトロント・杭州、そしてトヨタ)



今後の継続にあたっての体制

スマートシティモデル事業（重点事業化プロジェクト）採択



今後の継続にあたっての体制

官民ビッグデータの活用によるEBPMの推進
デジタルジオラマによる高速PDCA
産学官民のコミュニケーションプラットフォーム



まちづくりをビジネス化するための
新しいランドデザイン
新しいファイナンス



都市を丸ごとアップデートする
スマートシティ



前橋市スーパーシティ構想



スーパーシティとは



AI、ビックデータ等の最先端の技術を活用し、未来の暮らしを先行実現する「まるごと未来都市」。データ連携基盤をベースとした規制改革を伴う複数分野のスマート化の取組を同時に暮らしに実装し、社会的課題の解決を図る。



(* 1) API :Application Programing Interface

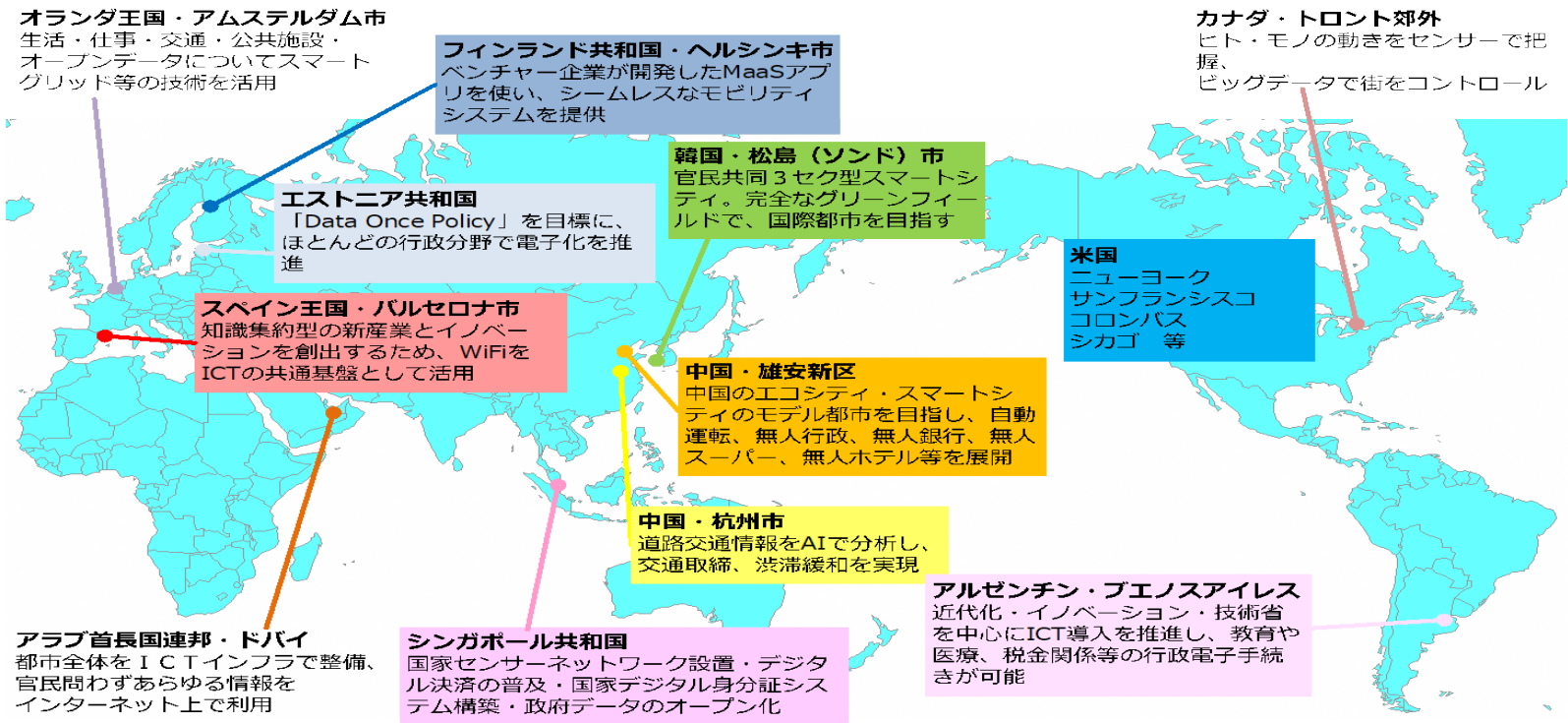
(* 2) データ分散方式を推奨。必要に応じてデータ蓄積も許容。



背景

第4次産業革命 (IoT、ビッグデータ、AI等) に対応する社会 < Society5.0 > や実証 (実験) でなく実装の取組が **世界と比べて遅れている日本の成功モデル** を作り、全国に展開する。

海外のスマートシティ事例



今まで(スマートシティ等)との違い

- ・今まで(スマートシティ)がエネルギーや交通等の**個別分野**での**規制の調整内**で最先端技術による**実証実験的な取組**
- ・スーパーシティは**5分野以上の生活全般**に渡る**大胆な規制改革**を前提とした**実証実験**でなく**生活が良くなる実装**する取組



今まで(国家戦略特区)との違い

- ・今までは「**世界で一番ビジネスがしやすい環境**」
- ・スーパーシティは「**データ連携基盤整備をベースに市民目線・住民福祉・利便の増進を図る**」



メリット

- ・ **大胆な規制改革** : 省庁をまたがる改革を一括で
- ・ **国の支援** : 様々な分野での支援
- ・ **企業・人材の誘致** : クリエイティブ企業・クリエイティブ人材



スーパーシティの流れ

2020年度（フェーズ1）

5 地区選定

申請計画作成・提出・選定

申請検討
準備検討会（組織発足）
基本方針作成
事業者公募
申請計画作成・提出
地区選定

2021年度（フェーズ2）

基本構想作成・申請

基本構想作成・提出

区域会議設置
基本構想＜実行計画＞検討
住民意向確認
基本構想提出
先行事業実施（検討）

2022年度（フェーズ3）

事業計画事業実施

事業計画・事業実施

事業計画
事業実施

前橋市スーパーシティ構想



コンセプト

スーパーシティ & スローシティ

スーパーシティ推進とスローシティ推進の両輪により、
本市の将来都市像である“新しい価値の創造都市”を実現する



コンセプト

スーパー(デジタル)で スロー(多様性)を デザインする

今までの障壁、困りごとを最先端のデジタル技術や仕組みで解決して
時間と心のゆとりを生み、
そのゆとりで豊かな自然や食や文化を楽しみ、学びの可能性を広げて、
多様な人々がつながりを育む生き生きとした生活を実現する



スローシティ(30か国236都市)

日本では気仙沼市と前橋市だけ:前橋市は日本で推進役割

多様性や寛容性をベースにゆったりとした暮らしで
心身ともに健康的な生活を送る

- 地域固有の文化・風土と市民のライフスタイルを尊重する
新しいまちづくり
- 違いはチカラ、違いが豊かさ
- 今までは「障害者」や「LGBT」等の様々な人もいる

「障害者」や「LGBT」等の様々な人がいることで
食卓同様に社会が豊かになる



“ わたしらは、伝統や歴史や文化とともに地域に根ざす食を大切にします。人の集まる広場、劇場、商店、飲食店から年々壮年などの積極的な場所。壊れていない美しい自然の景観を守るとともに、魅力的な職業が並び、職入達が暮らす豊かな街を目指します。 ゆったり暮らすこと、「slow/slow」を目指すものや興味を込め直し理解し、息の多い季節の移り変わりを感じ、美味しく健康的な旬の食、豊林水産物とともに地域の風習、伝統、文化を大切にすだけでなく、その価値を再評価し、新たな価値、宝を再んていことを願います。 ”

「 チッスローという意味は? 「Cittaslow(チッタスロー)というのは、イタリア語のcittà(都市、町)と英語のslow(ゆっただら)という言葉を連想させ、英語では「スローシティ」といって使われますが、日本語では「スローシティ」のような意味とはなりません。 *本意においては、遅くとして「スローシティ」とはなりません。 ”

幸福な未来のためのスロー

早急と競争力のある生産性を追及する時代に対して、幾つかの街が、スローフード国際協会とともに、『チッタスロー』という壮大なプロジェクトを立ち上げました。きっかけは、1999年10月15日にイタリアの中部に位置するトスカーナ州のグレイブ・キャンティ市の市長サトル・ニコニ・パオロが、プラ市、オルビエト市、ボジターノ市、そしてスローフード国際協会の会長ベリニ・カルロとともに、新しいネットワークを作ると呼びかけたことでした。この約20年間、この運動は世界中へと徐々に広がって、30か国にある236の市町村がスローシティ国際連盟に加盟することになりました(平成29年10月時点)。その多くの市町村の目的は、各々の街の行政、市民、スローシティ関係者たちがつながり、全ての人が健康で幸せな住み良い街を作ることです。 ここで記載している、「スロー」という言葉は、「発展を遅らせる」というマイナスの意味ではなく、逆にプラスの意味を持っています。それは、近代化や画一性に流されることなく、本来行なうべき事をよく考え、必要な時間をかけて、最も相応しいまちづくりの方法を探ることです。また、行政と住民は過去から残すべき良き伝統や風習を受け継ぎ、現在と未来からは適切な技術を選択しながら、背中に我々のまちを背負い、ゆっくり未来に向かうカタツムリと一緒により良い世界を作るための道を歩けるようになります。

Points!

- 標準化ではなく、多様性を促進すること
- 地域独自の文化や伝統を支援すること
- 持続可能な暮らしや環境づくりを促進すること
- 地域の良質な商品や健康的な食品を支援すること
- 住民と一緒に住み良いまちを作ること

イタリアから世界中へ



1. 目的

- ・市民の(街の)真の課題を最先端技術で解決
- ・大胆な規制改革で民間の新たな取組の推進
- ・実証段階となっている既存事業の実装
- ・アフターコロナのニューノーマル対応、今後起こりうる非常事態に対応できるまちづくり



2. 事業名

(仮称)フルマイナンバーシティ前橋

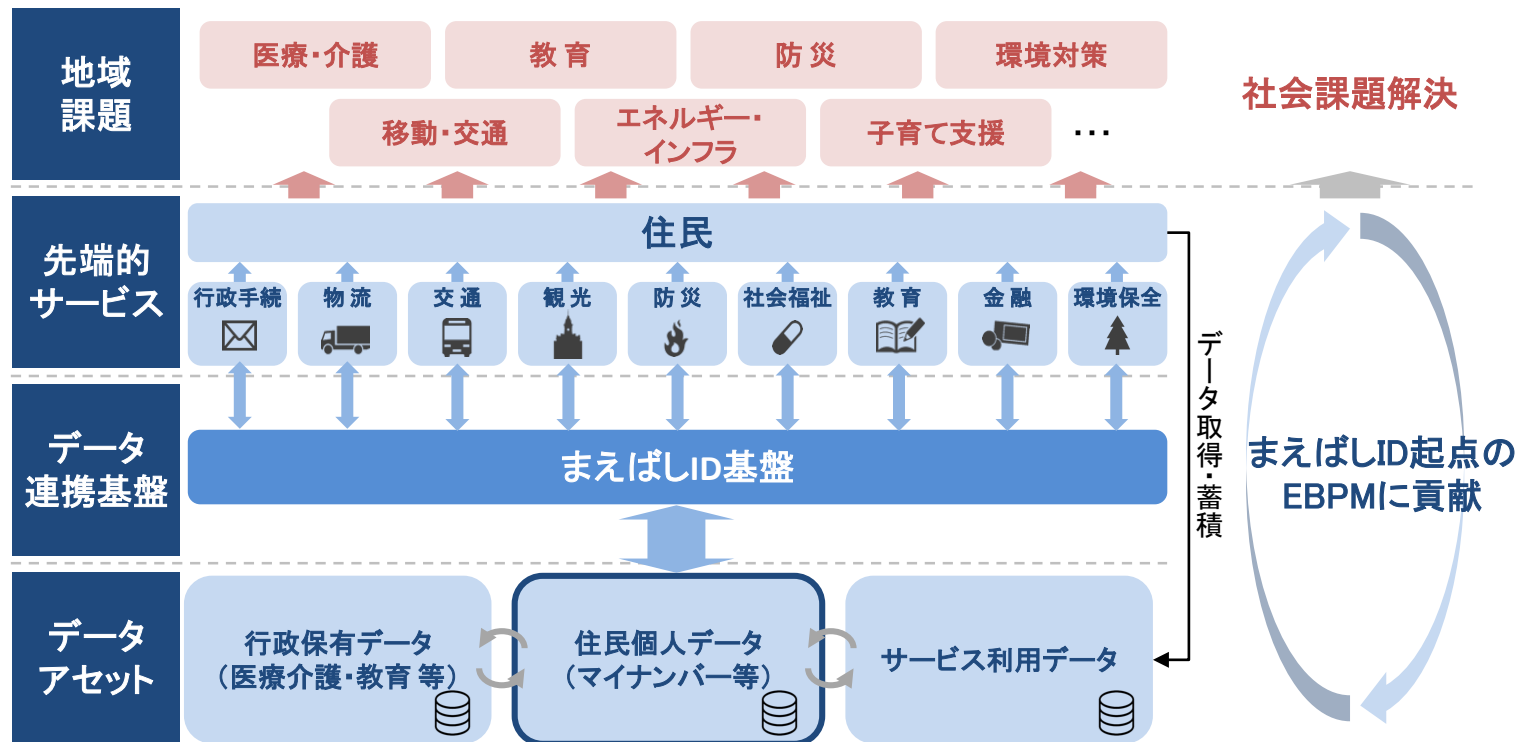
～マイナンバーで日々の暮らしを安全で楽しく豊かに～



まえばしIDを活用した “フルマイナンバーシティ”

イメージ

狙い



ポイント1

日本初（世界初）の

まえばしIDで

安全で豊かな暮らし



ポイント2

市民合意のもと

必要な時に

必要な情報を

安全に利用



ポイント3

今までの官民連携の取り組みをさらに進めた**先進的な民間主導事業とデジタルガバメント実行等の行政事業の融合サービス**



(1) ベース

① マイナンバーカード × スマートフォン × 顔認証

→ 新しいID(まえばしID)

② マイナンバー

法的バックグラウンドのあるマイナンバー法と電子署名法、そして顔(生体認証)の組み合わせにより、行政のデジタル化と社会のデジタル化を図る

市の保有データ(医療、世帯、教育等)と

民間の保有データ(口座、交通、購買等)の連携により、

市民の合意のもと、必要な時に、必要な情報を安全に利用



オンラインや手ぶらで、市民の暮らしをデザインするさまざまなサービスを楽しむまちづくり



ポイント4 特徴

①SIB(ソーシャルインパクトボンド)、企業版ふるさと納税等による

**民間資本導入の新しいまち
づくりファイナンス**

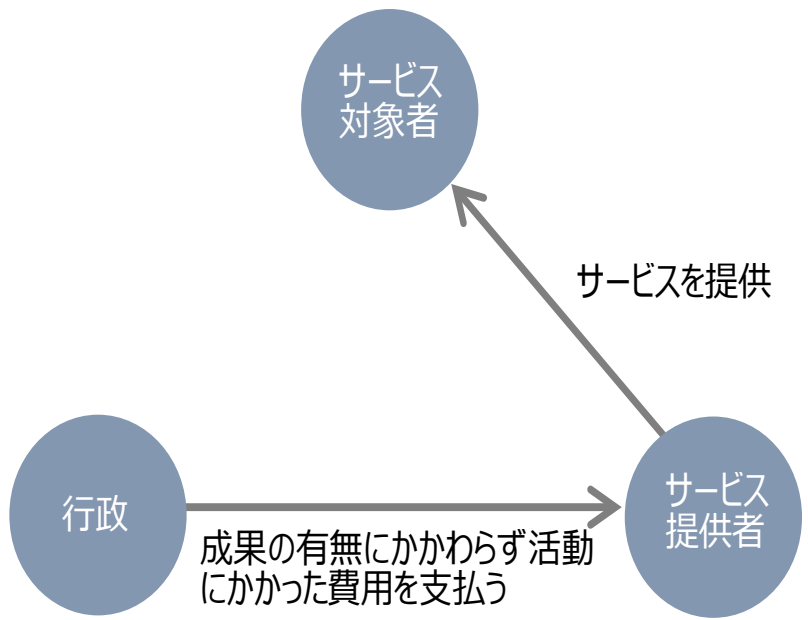
②市民との**新しいコミュニケーション
プラットフォーム**



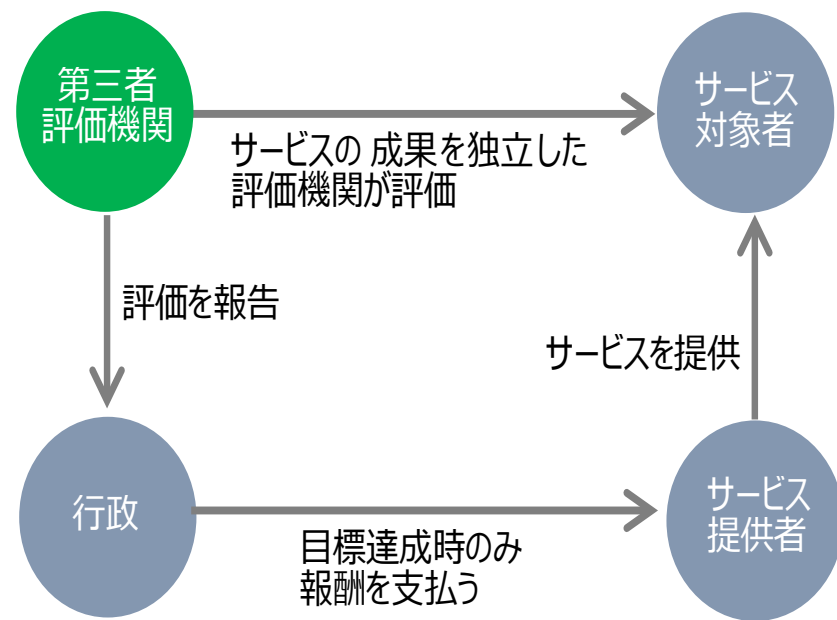
成果連動型委託 (PFS)

民間資本導入成果連動型委託 (SIB)

■ 通常の行政サービスの民間委託事業

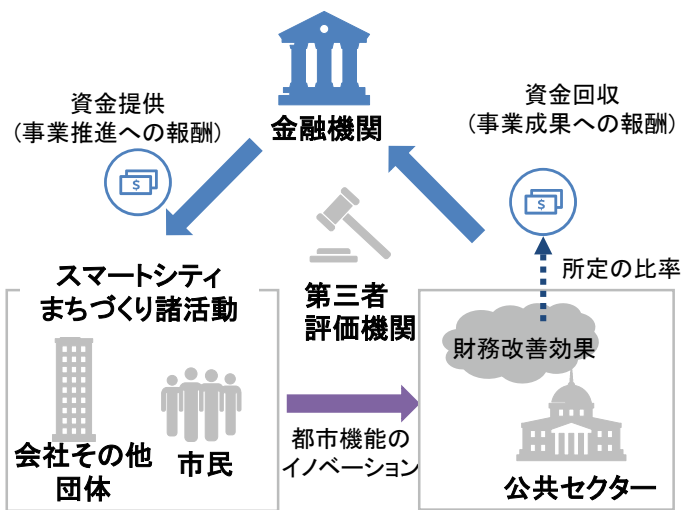


■ 成果連動型支払の民間委託事業



スーパーシティの各事業に対し成果連動型の報酬を設定し、公共セクターにもたらす中長期的な財政効果を財源としたファイナンスを官民連携で実施する

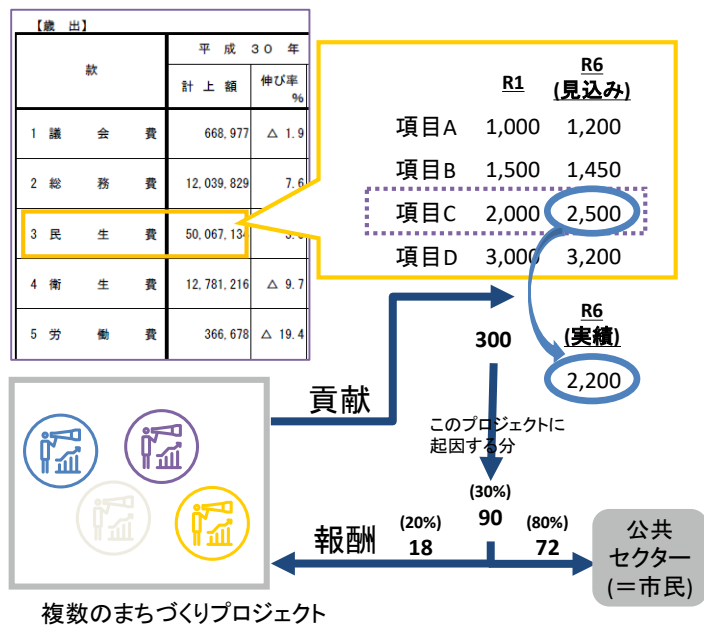
成立を目指すファイナンススキーム



特徴	比較対象としてのSIB
複数の事業全体が対象	特定の単一事業が対象
長期(3~10年)	短期(1~3年)
事業推進の対価支払	事業資金の提供

出所: 前橋市HP

プロフィットシェアの考え方(例示)

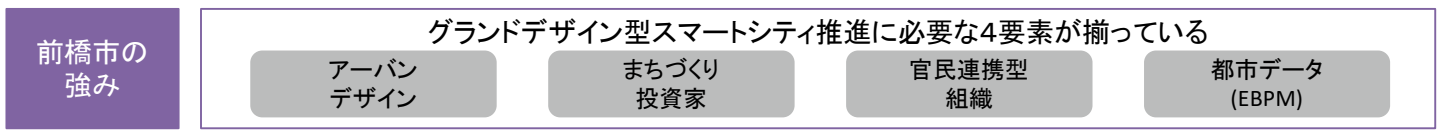


複数のまちづくりプロジェクト

- 報酬を受け取る主体として認定されている
- 実態としての貢献があるか、何らかの第三者評価に浴する
- 運営主体は様々だが、財務成果の目標を共有している

まちづくり事業を総体として捉え、ファイナンスの対象にする

前橋市発「都市を丸ごとアップデートするスーパースマートシティ」の構想



既存のまちづくりを都市全体目線・長期目線で捉え直し、金融や行政のイノベーションと掛け合わせることで、“都市を丸ごとアップデートする”取り組みへと昇華させていくことが可能

